

# 全国学力・学習状況調査の結果

## 調査概要

- ◆ **調査日時**：平成31年4月18日（木）
- ◆ **調査事項**：①児童生徒：教科調査〔国語,算数・数学,英語(中学校)〕,質問紙調査  
②学校：質問紙調査
- ◆ **調査対象及び集計対象 児童生徒数・学校数**：

	小学校				中学校			
	調査対象児童数※1	集計対象児童数※2	調査対象学校数	集計対象学校数	調査対象生徒数※1	集計対象生徒数※2	調査対象学校数	集計対象学校数
公立	1,062,730人	1,028,203人	19,299校	19,263校 (99.8%)	1,002,814人	938,888人	9,572校	9,513校 (99.4%)
国立	6,468人	6,273人	75校	75校 (100.0%)	10,698人	9,894人	80校	77校 (96.3%)
私立	12,663人	6,030人	226校	117校 (51.8%)	79,068人	28,588人	757校	360校 (47.6%)
合計	1,081,861人	1,040,506人	19,600校	19,455校 (99.3%)	1,092,580人	977,370人	10,409校	9,950校 (95.6%)

※1 調査対象児童生徒数について,公立及び国立は,調査実施前に学校から申告された児童生徒数,私立は,平成30年度学校基本調査による。調査当日までの転出入等により増減の可能性がある。

※2 集計対象児童生徒数・学校数は,4月18日に調査を実施した数。集計対象児童生徒数は,回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

### ◆今年度の調査の特徴：

- ・ 知識と活用を一体的に問う調査問題
- ・ 中学校で英語調査を導入

## 教科に関する調査結果概要

### ◆全国（国公私）の平均正答数・平均正答率

	小学校				中学校				(参考値) 英語 「話すこと」	
	国語		算数		国語		数学			英語※3
平成31年度	9.0 /14問 64.0%		9.3 /14問 66.7%		7.3 /10問 73.2%		9.7 /16問 60.3%		11.9 /21問 56.5%	1.5 /5問 30.8%
(参考)平成30年度	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B		
	8.5 /12問 70.9%	4.4 /8問 54.8%	8.9 /14問 63.7%	5.2 /10問 51.7%	24.4 /32問 76.4%	5.6 /9問 61.7%	24.0 /36問 66.6%	6.7 /14問 47.6%		

※3 中学校英語の調査結果は「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計。学校のPC端末等を利用して実施した「話すこと」は,英語とは実施生徒数が異なるため,「参考値」として集計。

# 1. 教科に関する調査結果

## 小学校国語

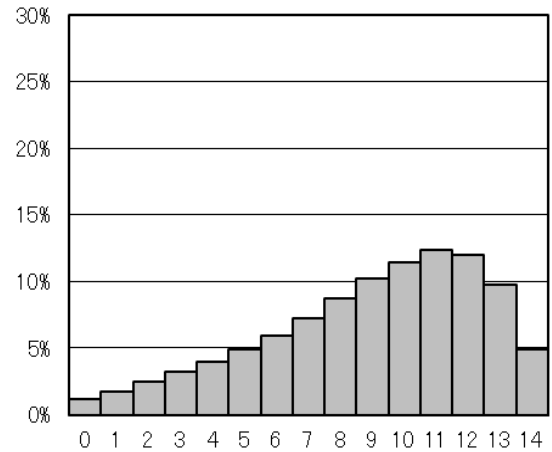
〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	72.4
	書くこと	3	54.6
	読むこと	3	81.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	53.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	57.8
	話す・聞く能力	3	72.4
	書く能力	3	54.6
	読む能力	3	81.8
	言語についての知識・理解・技能	5	53.7
問題形式	選択式	7	75.2
	短答式	4	48.9
	記述式	3	57.8

〈小学校国語の児童の正答数分布グラフ〉

(横軸：正答数, 縦軸：児童の割合)

平均正答数	中央値	標準偏差	最頻値
9.0問/14問	10.0問	3.4	11問



〈今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問〉

- ① 必要な情報を得るために、本や文章全体を概観して効果的に読むことはできている。

**大問2** 疑問に思ったことを調べ、紹介し合う（「食べ物の保存」）

【読むこと】

設問二

宮原さんが自分で梅干しを作るとして、必要な情報を得るために適切なページの番号を選択する問題

- ・【目次の一部】の「梅と塩、道具の選び方」、「作り方の手順とポイント」という言葉に着目して、55ページを読もうとしていることを捉えて番号を選択している。

【目次の一部】

第2章 梅干し	
○ 梅干しはどこからきたのか ・梅干しの起源	… 40ページ [1]
○ はじめてでも簡単! おうちで梅干し ・梅と塩、道具の選び方 ・作り方の手順とポイント	… 55ページ [2]
○ 梅干しの活用術 ・いわしの梅葉 ・わかめと梅干しのスープ	… 67ページ [3]
○ 梅干しの豆知識 ・故事とことわざ	… 77ページ [4]

知りたいこと  
梅干しを作るには塩はどのくらい必要で、いつ入れたらいいのかを

正答率: 88.6%



宮原さん

- ② インタビューの場面で、相手の意図を捉えながら聞き、自分の理解を確認する質問をすることはできている。

**大問3** 地域で活躍する人を紹介する（畳職人へのインタビュー）

【話すこと・聞くこと】

設問一

畳職人へのインタビューの中で、聞き手の児童が自分の理解が正しいかどうかを確認するときの適切な質問を選択する問題

正答率: 81.4%

(畳職人) 完成した畳は同じように見えても、それぞれに個性があるのです。そこが私にとっての一番のみりよくですかね。

(聞き手の児童) そうなのですね。それはつまり、

- 1 十八歳から五十年間も、畳職人という仕事を続けることができたということでしょうか。
- 2 機械を使って一度にたくさん作るので、より多くの人が使うことができるということでしょうか。
- 3 最近作られた畳の中で、特にくふうして仕上げたものにはどのようなものがあるのでしょうか。
- ④ 細部までいねいに手作業で作るので、一枚も同じものはないということでしょうか。

③ 相手に分かりやすく情報を伝えるための記述の工夫を捉えたり、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書いたりすることに課題がある。

**大問1** 調べたことを報告する文章を書く（「公衆電話」） **【書くこと】**

設問二

報告する文章の「（２）公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」の部分における書き方の工夫として適切なものを選択する問題

- ① 情報を整理して伝えるために、ことがらを分けて並べて書いている。
- ② 自分の考えを強調するために、同じ言葉をくり返して書いている。
- ③ 自分の考えのもととなる事実を示すために、図や表を用いて書いている。
- ④ 相手の理解を助けるために、使い方の手順に従って書いている。

**正答率:63.6%**

設問三

報告する文章の「3 調査の結果をもとに考えたこと」の部分に、「（１）公衆電話はどのようなときに必要なのか」と「（２）公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」で分かったことをまとめて書く問題

- ・（１）（２）両方から分かったことを取り上げて、報告文にふさわしい表現で書いている。

**正答率:28.9%**

④ 漢字（同音異義語）を文の中で正しく使うことに課題がある。

**大問1** 調べたことを報告する文章を書く（「公衆電話」） **【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】**

※児童が報告する文章を読み返すという場面設定の下、文脈の中で漢字（同音異義語）を正しく書く問題を出題。

設問四（１）ア

「地いきの人三十人を調査のたいしょうとして、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ…」という文章の下線部を正しい漢字で書く問題

- ・「対象」と解答している：**正答率:42.1%**
- ・「対照」と解答している：3.4%
- ・「対称」などと解答している：29.3%

設問四（１）ウ

「今回の調査を通して知ったことを…多くの友達に伝え、公衆電話についてかんしんをもってもらいたいと思います」という文章の下線部を正しい漢字で書く問題

- ・「関心」と解答している：**正答率:35.8%**
- ・「感心」と解答している：46.9%

〈指導改善に向けて〉

**【読むこと】**

○ **目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む指導の工夫**

- ・調べる学習などで利用する機会の多い図鑑や事典を効果的に読むために、目次や索引等を活用することができるようにする。その際、目次や索引のそれぞれの特徴を理解し、それらを自分の目的や状況に応じて活用していくことができるようにする。

**【話すこと・聞くこと】**

○ **必要な情報を得るために、目的に応じた質問をする指導の工夫**

- ・インタビューをして必要な情報を得るために、「何のために、どのような情報を聞き出したいのか」といった目的を明確にすることができるようにする。その上で、話の展開に沿って目的に応じた質問の仕方を考えたり、相手の意図を捉えて質問したりすることができるようにする。

**【書くこと】**

○ **目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く指導の工夫**

- ・より説得力をもって自分の考えを伝えるために、調査したことを報告する文章では、調べて分かった事実を基に自分の考えをまとめて書くことができるようにする。その際、報告する目的に応じて、どのような理由や事例を挙げて自分の考えをまとめることが適切かを十分考えて書くことができるようにする。

**【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】**

○ **同音異義語に注意して、漢字を文の中で正しく使う指導の工夫**

- ・漢字による熟語などの語句の使用が増加する高学年では、漢字辞典を使って意味を調べたり、同音異義語を使い分けた短文作りをしたりする学習などを取り入れ、文や文章の中で正しく使うことができるようにする。

# 中学校国語

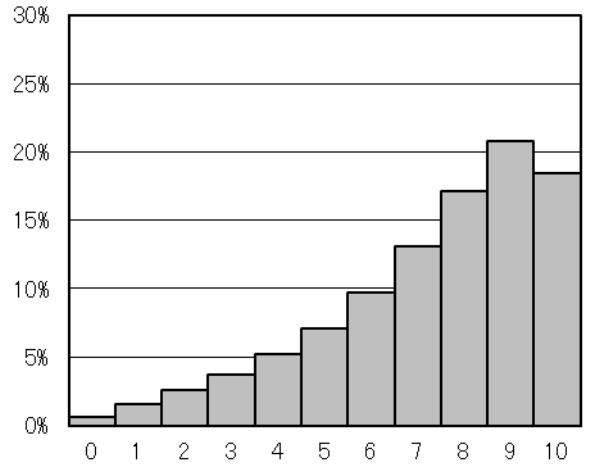
## <分類・区分別集計結果>

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	70.6
	書くこと	2	82.8
	読むこと	3	72.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	68.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	76.8
	話す・聞く能力	3	70.6
	書く能力	2	82.8
	読む能力	3	72.7
問題形式	言語についての知識・理解・技能	2	68.2
	選択式	6	74.0
	短答式	1	57.4
	記述式	3	76.8

## <中学校国語の生徒の正答数分布グラフ>

(横軸：正答数, 縦軸：生徒の割合)

平均正答数	中央値	標準偏差	最頻値
7.3問/10問	8.0問	2.4	9問



## <今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

① 文章の構成や展開, 表現の仕方について, 根拠を明確にして自分の考えをもつことや, 文章の展開に即して情報を整理し, 内容を捉えることに課題がある。

### 大問1 情報を読む(新聞) 【読むこと】

#### 設問二

【全国中学生新聞】の「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている, 弁当の魅力として適切なものを全て選択する問題

- インターネットを利用して, 様々な国の弁当を取り寄せることができる。
- 主食, 主菜, 副菜などが収まっており, 栄養バランスのよい食事をとることができる。
- ボックスランチやカスクルートなどとは異なり, 戸外に持ち出して食べることができる。
- いろいろな料理が詰められているので, 食べ物の風味を保つことができる。
- 様々なデザインの弁当箱があり, 自分の好みのものを選ぶことができる。

・ 2 だけ選択している : 12.6%  
 ・ 5 だけ選択している : 2.9%

**正答率: 62.2%**

### 【全国中学生新聞】右ページ

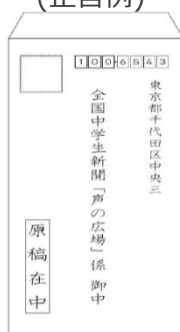
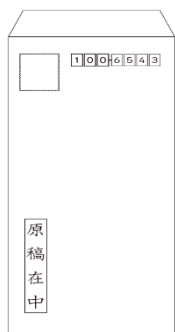
② 封筒の書き方を理解し, 文字の大きさや配列などに注意して書くことに課題がある。

### 大問1 情報を読む(新聞) 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

#### 設問四

封筒の書き方を理解して宛名を書く問題

(正答例)



【全国中学生新聞】を読み, 「声の広場」へ投稿するという場面設定の下, 紙面の投稿先の情報から封筒へ宛名を記入。

**正答率: 57.4%**

### 【全国中学生新聞】左ページ

③ 話合いの話題や方向を捉えることはできているが、それを踏まえて自分の考えをもつことに課題がある。

**大問2** 話合いをする（文化祭）【話すこと・聞くこと】

設問三

「地域とのつながりを大切にしたい文化祭にするために」という議題での話合いの流れを踏まえ、まだ「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く問題

- ・「どうするか決まっていないこと」とは何かを明確にして、それを解決する具体的な案を、実際に話すように書いている。

正答率:60.9%

④ 自分が伝えたいことについて資料の中から根拠となる情報を取り出して正確に書くことはできているが、自分が伝えたいことの根拠として読み手に分かりやすいように書くことに課題がある。

**大問3** 意見文を書く（地域の店）【書くこと】

設問二

広報誌の一部にある情報（アンケート結果）を用いて、意見文に地域の店の「魅力」の具体例を書き加える問題

また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート「利用者が感じる地域の店の魅力」の結果からも分かることがある。例えば、

約三割の人が「高齢者への配慮がある」と感じており、超高齢社会を支える大切な役割が地域の店にあるのだと思う。（正答例）

- ・情報を適切に用いて正確に書いている。18.3%
- ・取り上げた情報を基に自分の考えを加えて書いている。59.7%

正答率:78.0%

〈指導改善に向けて〉

【話すこと・聞くこと】

○目的や場面に応じて話し合い、自分の考えをまとめる指導の工夫

- ・各学年における話し合うことに関する指導を意図的・計画的に行うとともに、話すことに関する指導事項及び聞くことに関する指導事項との密接な関係を図って指導する。

【書くこと】

○目的や意図に応じて相手に分かりやすく書く指導の工夫

- ・各学年における記述に関する指導を意図的・計画的に行うとともに、小学校での学習を踏まえ、自分の考えの根拠として用いる情報が適切かどうかを検討したり、自分の考えとの関係が分かるように記述したりするように指導する。

【読むこと】

○文章の構成や展開を理解し、内容を的確に捉える指導の工夫

- ・文章の特徴を把握するとともに、これまでの読書経験や体験などを踏まえ、内容や表現を、想像、分析、比較、対照、推論などによって相互に関連付けて読むように指導する。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

○字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書く指導の工夫

- ・毛筆を使用する書写の指導と硬筆を使用する書写の指導との割合を各学校と生徒の実態に即して適切に設定して指導するとともに、書写の能力を学習や生活に役立てるように指導する。

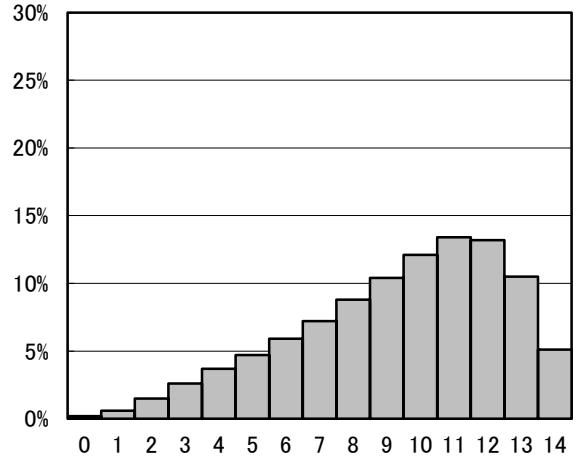
## 〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)
学習指導要領の領域	数と計算	7	63.3
	量と測定	3	53.1
	図形	2	76.8
	数量関係	7	68.5
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	
	数学的な考え方	8	62.4
	数量や図形についての技能	4	73.7
	数量や図形についての知識・理解	2	70.2
問題形式	選択式	5	75.8
	短答式	5	73.0
	記述式	4	47.6

## 〈小学校算数の児童の正答数分布グラフ〉

(横軸：正答数, 縦軸：児童の割合)

平均正答数	中央値	標準偏差	最頻値
9.3問/14問	10.0問	3.1	11問



## 〈今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問〉

① 台形について理解していることがうかがえる一方、図形の性質や構成要素に着目し、図形をずらしたり、回したり、裏返したりすることで、ほかの図形を構成することに課題がある。

### 大問1 図形の構成と筋道を立てた考察(台形)

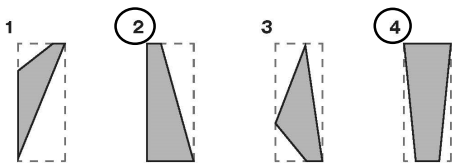
#### 【図形】

(1) 長方形を切ってできる形から、台形を2つ選ぶ問題

(1) ゆうたさんは、上のような長方形の紙を直線で切って、下の1から4までの図形をつくりました。

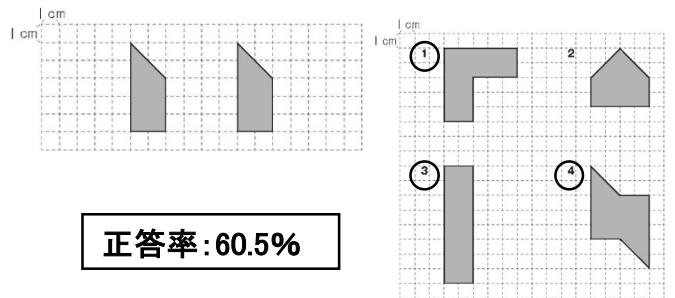
下の1から4までの中で、台形はどれですか。

2つ選んで、その番号を書きましょう。



正答率: 93.2%

(2) 示された2つの合同な台形からつくることのできる形をすべて選ぶ問題



正答率: 60.5%

・1,4のみで3を選んでいる: 11.8%

② 二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を記述することに課題がある。

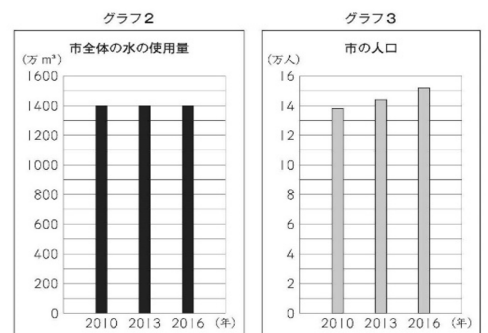
### 大問2 資料の特徴や傾向を読み取り判断すること(水の使用量)

#### 【数量関係】

(3) 一人当たりの水の使用量の増減について判断し、判断した理由を、グラフ2、グラフ3から分かること基に、言葉や数を使って書く問題

・一人当たりの水の使用量の増減を判断し、複数のグラフから読み取った資料の特徴や傾向を関連付け、判断の理由を書いている

正答率: 52.3%



③ 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することに課題がある。

**大問3** 計算の仕方の解釈と発展的な考察（計算の工夫）

**【数と計算】**

(2) 示された計算の仕方を解釈し、除法に関して成り立つ性質を、「わられる数」「わる数」「商」の3つの言葉を使って書く問題

・わり算では、

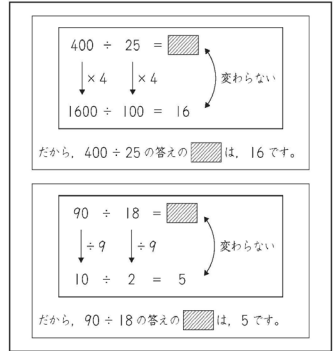
(正答例)

わられる数とわる数に同じ数をかけても、わられる数とわる数を同じ数でわっても、商は変わりません。

このことを使うと、計算しやすいわり算の式で考えることができます。

**正答率:31.3%**

【ことねさんの計算の仕方】



④ 示された場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、所要時間の求め方と答えを記述し、その結果から判断することに課題がある。

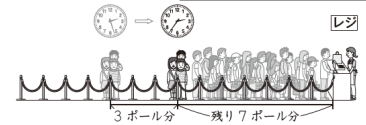
**大問4** 日常生活の事象を数理的に捉え判断すること（遊園地での待ち時間）

**【量と測定】**

(3) はるとさんたちがレジに着くまでにかかる時間の求め方と答えを言葉や式を使って書き、判断する問題

- ・「1ポール分当たりにかかる時間を求める式や言葉」、
- ・「7ポール分進むのにかかる時間を求める式や言葉」、
- ・答えを記述し、条件に当てはまるかどうかを判断している。

**正答率:62.8%**



3ポール分進むのに9分間かかったことから、残り7ポール分も同じ進みぐあいでは進むとして考えます。

3ポール分進むのに9分間かかる進みぐあいでは進むとすると、残り7ポール分進むのにかかる時間は何分間ですか。  
求め方を言葉や式を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。  
さらに、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを、下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

- 1 着くことができる。
- 2 着くことができない。

〈指導改善に向けて〉

**【数と計算】**

○計算に関して成り立つ性質を見だし、表現すること

- ・適用する数の範囲を広げていながら統合的・発展的に考え、計算に関して成り立つ性質を見だし、表現できるようにする。

**【量と測定】**

○場面の状況に応じて、数理的に捉え、数学的に表現・処理し、得られた結果から判断すること

- ・場面の状況を解釈し、数量の関係に着目して筋道を立てて考え、数学的に表現・処理し、得られた結果から判断できるようにする。

**【図形】**

○図形の性質や構成要素に着目して、図形を観察・構成すること

- ・図形の性質や構成要素に着目し、観察や構成などの活動を通して図形についての実感的な理解を深めることができるようにする。

**【数量関係】**

○資料の特徴や傾向を基に考察したり、複数の資料の特徴や傾向を関連付けて判断したりすること

- ・グラフから資料の特徴や傾向を読み取るとともに、複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断できない事柄についても判断できるようにする。

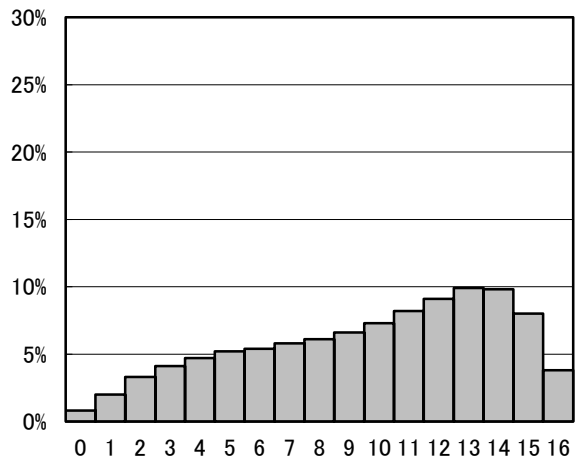
## 〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)
学習指導要領の領域	数と式	5	64.4
	図形	4	72.9
	関数	3	41.7
	資料の活用	4	56.7
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	
	数学的な見方や考え方	8	51.6
	数学的な技能	3	64.6
	数量や図形などについての知識・理解	5	71.7
問題形式	選択式	5	60.8
	短答式	7	67.2
	記述式	4	47.7

## 〈中学校数学の生徒の正答数分布グラフ〉

(横軸：正答数, 縦軸：生徒の割合)

平均正答数	中央値	標準偏差	最頻値
9.7問/16問	10.0問	4.2	13問



## 〈今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問〉

① 簡単な連立二元一次方程式を解くことについて,改善の傾向が見られる。

### 大問2 連立二元一次方程式

【数と式】

連立方程式  $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$  を解きなさい。

(正答)  $x = 2, y = -3$

正答率: 70.7%

② 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。結論が成り立つための前提を考え,新たな事柄を見だし,説明することに課題がある。

### 大問7

証明することや反例をあげることを通して, 統合的・発展的に考察すること (四角形の条件変え) 【図形】

(1) 証明で用いられている三角形の合同条件を書く問題

予想1

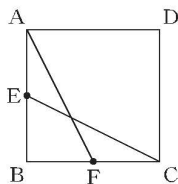
正方形ABCDの辺ABの中点をE, 辺BCの中点をFとすると, AF = CEになる。

次の(1)から(3)までの各問に答えなさい。

(1) 予想1が成り立つことは, 次のように証明することができます。

証明

△ABFと△CBEにおいて,  
正方形の4つの辺はすべて等しいから,  
AB = CB ……①  
点E, Fはそれぞれ辺AB, BCの中点だから, ①より,  
BF = BE ……②  
共通な角だから,  
∠ABF = ∠CBE ……③  
①, ②, ③より,                      がそれぞれ等しいから,  
△ABF = △CBE  
合同な図形の対応する辺は等しいから,  
AF = CE



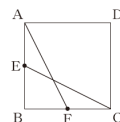
(正答)  
2組の辺とその間の角

正答率: 76.1%

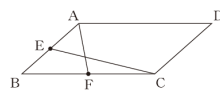
(3) 結論が成り立つための前提を考え, 新たな事柄を見だし, 説明する文を書く問題

まとめ

◎「正方形ABCDの辺ABの中点をE, 辺BCの中点をFとすると, AF = CEになる。」ということが成り立つ。



◎「平行四辺形ABCDの辺ABの中点をE, 辺BCの中点をFとすると, AF = CEになる。」ということが成り立たない。



(正答)

「四角形ABCDがひし形」  
「四角形ABCDがAB = BCの四角形」であるならば,  
「AF = CE」になると書いている。

正答率: 53.8%



③ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

**大問6** 事象の数学的な解釈と問題解決の方法（冷蔵庫）

【関数】

(2)

冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する問題

正答率: 35.6%

・アを選択し、方程式を解いて、使用年数の値を求めることについて書いている

正答率: 16.4%

・イを選択し、グラフの交点の座標から、使用年数の値を読み取ることについて書いている

正答率: 19.2%

健太さんが作った表

	冷蔵庫A	冷蔵庫B	冷蔵庫C
容量	400 L	500 L	500 L
本体価格	80000 円	100000 円	150000 円
1年間あたりの電気代	15000 円	11000 円	6500 円

(2) 健太さんの家では、7ページの健太さんが作った表で、容量が500 Lである冷蔵庫Bと冷蔵庫Cのどちらかを購入することになりました。そこで、健太さんとお母さんは、冷蔵庫を購入してx年間使用するときの総費用をy円として、冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用を比べてみることにしました。

健太さん「本体価格は冷蔵庫Cの方が高いので、最初のうちは冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が多いね。」  
お母さん「1年間あたりの電気代は冷蔵庫Cの方が安いので、使い続けると冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が少なくなるね。」  
健太さん「それなら、2つの冷蔵庫の総費用が等しくなるときがあるね。」

冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなるおよその使用年数を考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。

ア それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表す式

イ それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフ

④ 問題解決をするために、どのような代表値を用いるべきかを判断することに課題がある。

**大問8** 分析の傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること（図書だより）

【資料の活用】

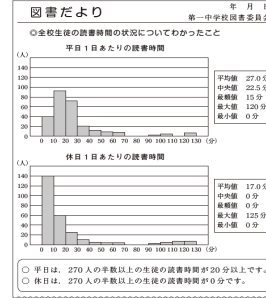
(3)

資料から「わかったこと」の根拠となる代表値として適切なものを選ぶ問題

(正答) 中央値

正答率: 54.1%

図書だよりの下書き



- 平日は、270人の半数以上の生徒の読書時間が20分以上です。
- 休日は、270人の半数以上の生徒の読書時間が0分です。

このことは、図書だよりの下書きにある平日1日あたりの読書時間と休日1日あたりの読書時間の、ある値に着目することでわかります。その値が、下のアからオまでの中にあります。それを1つ選びなさい。

- ア 平均値
- イ 中央値
- ウ 最頻値
- エ 最大値
- オ 最小値

〈指導改善に向けて〉

【数と式】

○ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する活動の充実

・連立二元一次方程式を解く際、2つの文字のうち一方の文字を消去し、一元一次方程式に帰着する考え方に生徒自らが気付けるようにする。

【図形】

○ 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明する活動の充実

・ある結論が成り立つ事柄について前提を変えたときに、同じ結論が成り立つかどうかを検討する場面を設定する。

【関数】

○ 事象の数学的な解釈に基づき、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実

・問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実する。

【資料の活用】

○ データの分布の傾向を読み取り、判断することを通して、統計的に問題解決する活動の充実

・日常生活や社会の事象における問題に対して、目的に応じてデータを収集し、ヒストグラムなどに整理し、そのデータの分布の傾向を読み取り、それに基づいて判断し統計的に問題解決をする活動を充実させる。

# 「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」について

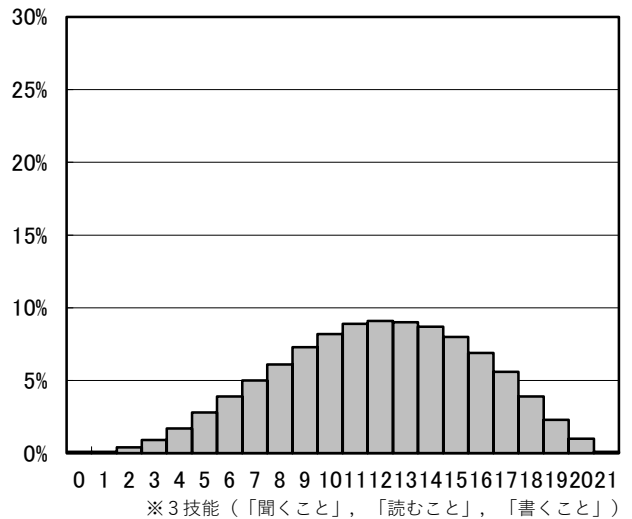
〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)
学習指導要領の領域	聞くこと	7	68.3
	話すこと (参考値)		
	読むこと	6	56.2
	書くこと	8	46.4
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	0	
	外国語表現の能力	1	1.9
	外国語理解の能力	6	45.3
	言語や文化についての知識・理解	14	65.2
問題形式	選択式	13	71.9
	短答式	5	46.0
	記述式	3	7.3

※3技能 (「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」)

〈中学校英語の生徒の正答数分布グラフ〉  
(横軸：正答数, 縦軸：生徒の割合)

平均正答数	中央値	標準偏差	最頻値
11.9問/21問	12.0問	4.0	12問



※3技能 (「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」)

- ① 話されたり書かれたりしている内容を聞き取ったり,読み取ったりすることは, おおむねできていると考えられる。
- ② 理解した内容を踏まえ, 目的・場面・状況に応じて, 話し手や書き手の伝えたいことは何かを理解するなど, 概要や要点を捉えることに課題がある。

① **大問1** 情報を正確に聞き取る **【聞くこと】**

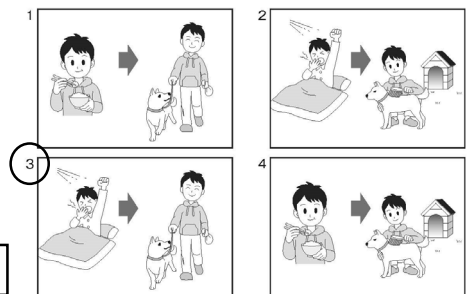
設問 (1)

ある状況を描写する英語を聞いて, その内容を最も適切に表している絵を選択する問題

(スクリプト)

I get up at six every Sunday and take my dog for a walk.

正答率: 91.3%



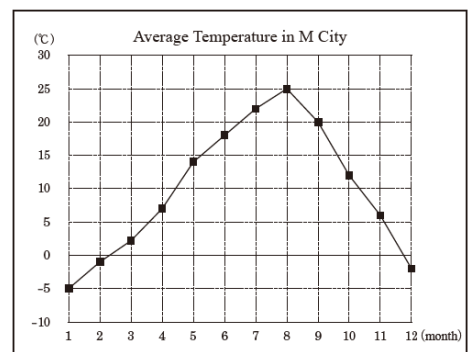
① **大問5** 情報を正確に読み取る **【読むこと】**

設問 (3)

月ごとの平均気温を表したグラフを見て, その内容を正しく表している英文を選択する問題

- 1 It is colder than 0°C in February and hotter than 20°C in June.
- 2 October is not warmer than April.
- 3 It is hotter than 25°C for three months.
- ④ It is the hottest in August and the coldest in January.

正答率: 73.6%



① **大問1** 情報を正確に聞き取る

**【聞くこと】**

設問 (4)

家での会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題

(スクリプト)

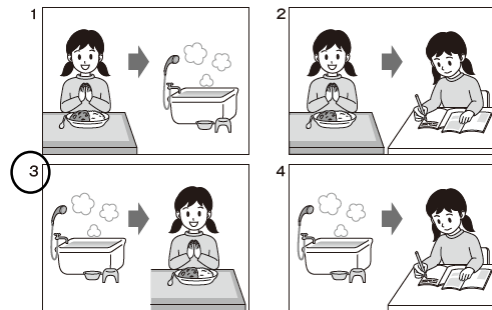
A : I'm so hungry.

B : Today's dinner is curry and rice. It will take about thirty minutes to cook. Do you have any homework today?

A : No, I don't.

B : Then take a bath before dinner.

A : OK.



**正答率: 62.4%**

英文を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる言語活動が行われていたと思っ  
ている生徒の方が正答率が高い。(P.19参照)

② **大問7** 説明文の大切な部分を読み取る

**【読むこと】**

チンパンジーに関する説明文を読み、スミス先生との会話文中の空欄に入る文を選ぶ問題

Ms. Smith: Ichiro, why don't you read this article? It's interesting.  
Ichiro: Oh, thank you, but it's all in English. That's difficult for me.  
Ms. Smith: This newspaper is for students. Try reading it!  
Ichiro: OK.

[Ichiro reads the article.]

Chimpanzees are one of the smartest animals. They can do a lot of things. How smart are they? A team at a university in Japan found the answer. Some chimpanzees may be as smart as four-year-old children in some ways.

Few animals can understand *janken*. In *janken*, none is the strongest among *rock*, *scissors*, and *paper*. Learning about the relation among the three is very difficult.

The team tried teaching *janken* to seven chimpanzees. They showed pictures of two different *janken* hands to the chimpanzees. The chimpanzees got food when they pointed to the stronger one. Finally, five of the chimpanzees learned *janken*.

The team also tried teaching *janken* to some human children. They found that children could learn *janken* when they were about four years old. Through this study, they got the answer to the question: "How smart are chimpanzees?"

[A few minutes later]

Ms. Smith: What is the most important point in this article?  
Ichiro: ( ).  
Ms. Smith: Right. That is the main point.

- ① Some chimpanzees may be as smart as four-year-old children
- 2 Few animals can understand *janken*
- 3 The team showed pictures of two different *janken* hands to the chimpanzees
- 4 The team found that children could learn *janken* when they were about four years old

・いずれの選択肢も本文の内容に書かれていることではあるが、最も書き手が伝えたいことは1である。問われていることが理解できていないか、最も伝えたいことを理解することができていない。

**正答率: 33.5%**

書かれている内容そのものを理解する問題(大問5)に比べて、概要や要点を捉える問題(大問6,7)の正答率は低いが、英文を読んで概要や要点をとらえる言語活動が行われていたと思っ  
ている生徒の方が正答率が高い。(P.19参照)

③ 基本的な語や文法事項等の知識を活用することに課題があり、与えられたテーマについてまとまりのある文章を書くときにおいても、相手に伝わる英語で表現することができていないと考えられる。

☆ 書くこと、話すことのどちらにおいても、問われていることが分かれば、自分の考えなどをなんとか伝えようとする粘り強さや意欲が見られる。

③ **大問9** 語や文法事項等を理解して正しく文を書く **【書くこと】**

設問 (1)

文中の空所に入れる接続詞として最も適切なものを選択する問題

② I saw a friend of mine at the station, ( ) I had no time to talk to him.

**正答率: 59.2%**

- 1 If    2 or    ③ but    4 because

・ 4を選択している: 35.1%

自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動が行われていたと  
思っている生徒の方が正答率が高い。  
(P. 20参照)

設問 (3)

与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く問題

①	出身	Australia
②	住んでいる都市	Rome
③	ペット (pet) の有(○)無(×)	×



① **正答率: 54.3%**

(正答例) She is from Australia.

② **正答率: 33.8%**

(正答例) She lives in Rome.

③ **正答率: 38.3%**

(正答例) She doesn't have any pets.

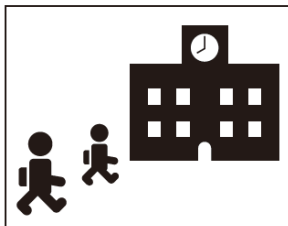
・ 人称や時制、動詞や前置詞などの文法の知識を、実際のコミュニケーションの場面で活用することに課題がある。

③ ☆ **大問10** まとまりのある文章を書く **【書くこと】**

学校を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに25語以上の英語で意見を書く問題

【A】

【B】



(正答の条件)

- ① どちらの案がよいか、1つ選んで意見を書いている。
- ② 選んだ理由等について、2つの案に触れながら書いている。
- ③ 25語以上の英語で書いている。

・ ①②③全てを満たし、コミュニケーションに支障をきたすような誤りがない英文で答えている。

**正答率: 1.9%**

・ 本問は英語の表現の正確さについて、主語や動詞等の主要語の欠落や文構造の誤りなどコミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがない英語で書いていることを採点の視点としている。

・ 33.0%の生徒が、①②③を満たしつつも、こうした誤りがあるため正答に至らなかった。大問9で明らかになったように、語や文法事項等を活用することに課題があることで、自分の考えや理由を適切に書くことができなかったものと考えられる。

・ 一方、49.7% (上記33.0%を含む) の生徒が、条件③を満たしていた(25語以上の文章を書いた)ことから、自分の考えや理由をなんとか伝えようとする粘り強さや意欲は見られた。

# 「話すこと」について

※「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計とは別に集計（参考値）

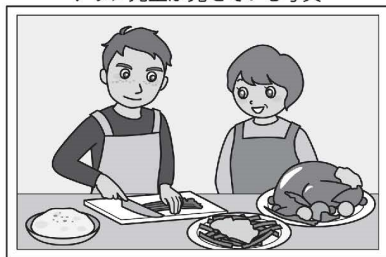
④ 話すことについては全体的に課題は多く、特に即興でやり取りすることに課題がある。

☆ 書くこと、話すことのどちらにおいても、問われていることが分かれば、自分の考えなどをなんとか伝えようとする粘り強さや意欲が見られる。

## ④ 大問2 即興でやり取りをする 【話すこと】

ユイコとアラン先生のやり取りを聞き、その内容を踏まえて会話が続けていくように即興で質問をすることができるかをみる問題

アラン先生が見せている写真



(スクリプト)

A: Look at this picture of my family.

This is my favorite picture.

Y: Nice! Who is she?

A: Oh, she is my mother, Nancy. And he is my brother, Tom. He can cook very well.

Y: I see. What kind of work does your mother do?

A: She is a teacher.

Do you have any other questions about them?

・二人のやり取りを踏まえた内容（写真の人物に関連した質問）を質問できている。

正答率: 10.5%

即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝える言語活動が行われていたと思っている生徒の方が正答率が高い。(P.20参照)

・無解答、あるいは以下のような解答: 48.5%

(解答例) ・ what's  
・ cooking

このような解答は、何を問いかけているかが分かっていないか、いつ自分の発話機会が訪れるかわからない状況で、話されているやり取りを聞きながら、即興で応じることに慣れていないと考えられる。

## ④ ☆ 大問3 まとまりのある内容を話す 【話すこと】

海外のテレビ局の取材を受けるという場面で、自分の夢とそのために努力していることについて話すことができるかをみる問題

話してほしい内容

(①、②のどちらか話してください)

- ①あなたの将来の夢、または、将来やってみたいこと
- ②その実現のために頑張っていること、やるべきこと



・左記①・②を満たし、話すことができています。

正答率: 45.8%

スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動がよく行われていたと思っている生徒（正答率54.6%）とそう思っていない生徒（正答率32.1%）で22.5ポイントもの差がある。(P.20参照)

正答を含め、解答のうち60.5%が①を満たしており、約6割の生徒がやりたいことや夢を英語で答えられている。また、本問は無解答率が「話すこと」の問題の中で最も低く(4.6%)、生徒たちの話そうとする意欲がうかがえる。

〈指導改善に向けて（今後3年を見通して）〉

### ○新学習指導要領（平成30年度から移行期間開始）に示した取組を着実に実施する。

- ・一文一文を聞き取る・読み取るだけでなく、目的・場面・状況等に応じて聞く・読む言語活動を充実させる。
- ・文法事項等を言語活動の中で理解し定着させる(和文に対応した穴埋めや語順整序だけではなく)。
- ・即興のやり取りをはじめとして、話すこと・書くことの発信の言語活動を充実させる。

### ○生徒の英語学習の意欲を高める。

- ・授業を実際のコミュニケーションの場面とする。
- ・生徒の関心に応じた話題を取り上げる。
- ・学習成果を適切に評価することで、学習意欲の向上を図る。 など

# 2. 質問紙調査結果（児童生徒、学校）

## 2(1). 国語、算数・数学について

### ①児童の興味関心と小学校における指導

- ◆国語と算数に関する児童の興味関心（～の勉強が好き、～の勉強は大切だと思う、～の授業の内容はよく分かる、～の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ）は増加傾向にある。
- ◆とりわけ、算数については、昨年度からすべての項目で最も肯定的な回答の割合が増加している。
- ◆学校における指導状況は、国語と算数のいずれの項目においても、最も肯定的な回答をした学校の割合が増加傾向にある。国語においては「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行ったか」、算数においては「実生活における事象との関連を図った授業を行ったか」との質問に対して、最も肯定的な回答が増加している。
- ◆「国語の勉強/算数の勉強が好き」だと回答した児童の方が平均正答率が高い傾向が見られた。

#### 小学校

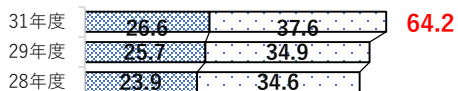
当てはまる     どちらかといえば、当てはまる     よく行った     どちらかといえば、行った

#### 【国語】

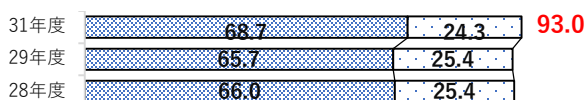
##### 児童の興味関心と学校の指導状況

※H30年度は、国語の項目は調査していない

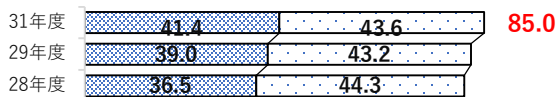
##### 国語の勉強は好きですか



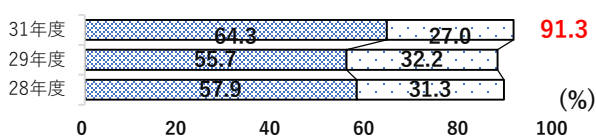
##### 国語の勉強は大切だと思いますか



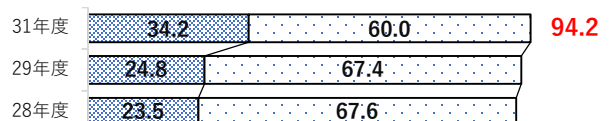
##### 国語の授業の内容はよくわかりますか



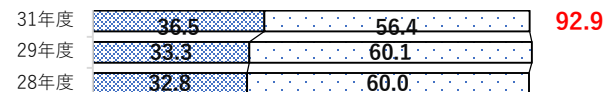
##### 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



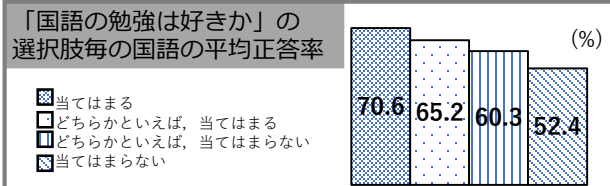
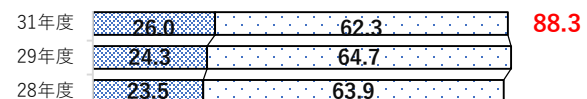
##### 目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか



##### 書く習慣を付ける授業を行いましたか



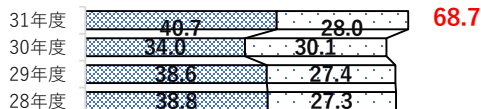
##### 様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか



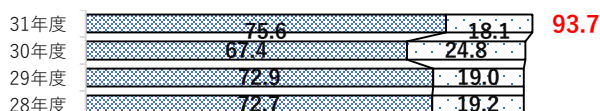
#### 【算数】

##### 児童の興味関心と学校の指導状況

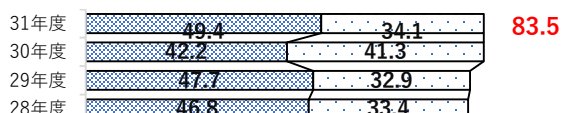
##### 算数の勉強は好きですか



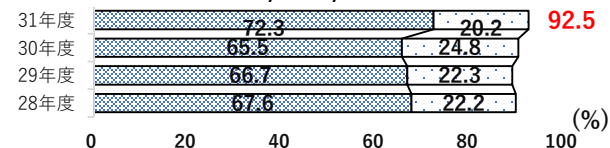
##### 算数の勉強は大切だと思いますか



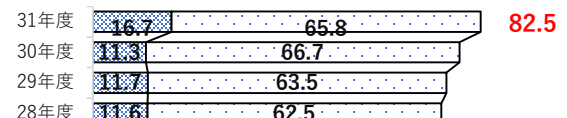
##### 算数の授業の内容はよくわかりますか



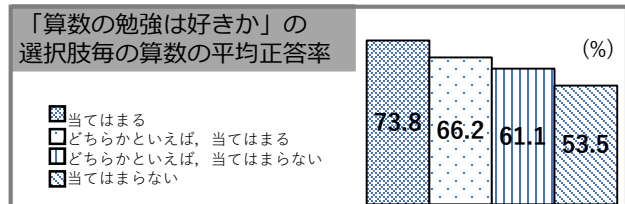
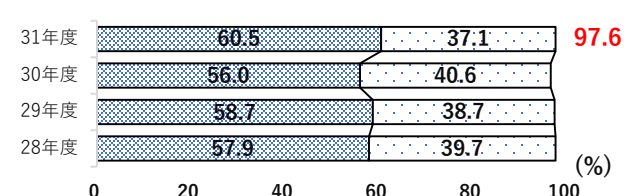
##### 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



##### 実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



##### 計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか



# 2(1). 国語、算数・数学について

## ②生徒の興味関心と中学校における指導

- ◆国語と数学に関する生徒の興味関心（～の勉強が好き,～の勉強は大切だと思う,～の授業の内容はよく分かる,～の授業で学習したことは,将来,社会に出たときに役に立つ）は,小6の結果と比較すると,いずれの項目も肯定的な回答がやや少ないものの,経年変化を見ると増加傾向にある。
- ◆とりわけ,数学については,小学校の算数と同様に,昨年度からすべての項目で最も肯定的な回答が増加している。
- ◆学校における指導状況は,国語と数学のいずれの項目においても,最も肯定的な回答をした学校の割合が増加傾向にある。国語においては「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行ったか」,数学では「実生活における事象との関連を図った授業を行ったか」との質問に対して,最も肯定的な回答が増加している。
- ◆「国語の勉強/数学の勉強が好き」だと回答した生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られた。

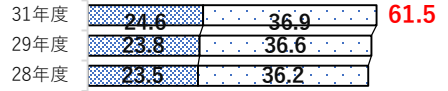
### 中学校

当てはまる     どちらかといえば, 当てはまる     よく行った     どちらかといえば, 行った

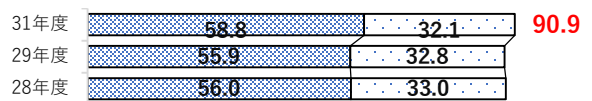
#### 【国語】 生徒の興味関心と学校の指導状況

※H30年度は,国語の項目は調査していない

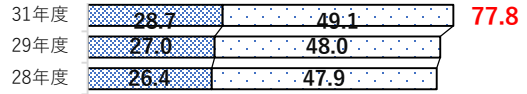
##### 国語の勉強は好きですか



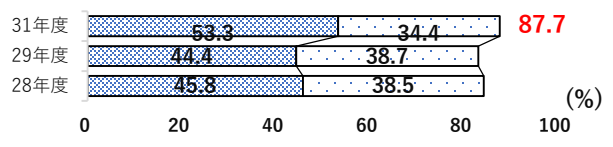
##### 国語の勉強は大切だと思いますか



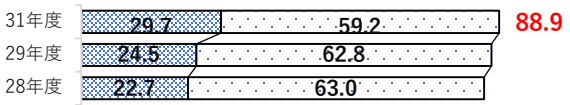
##### 国語の授業の内容はよくわかりますか



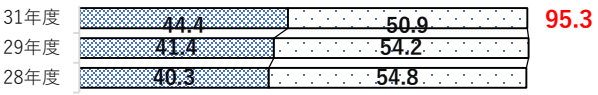
##### 国語の授業で学習したことは, 将来, 社会に出たときに役に立つと思いますか



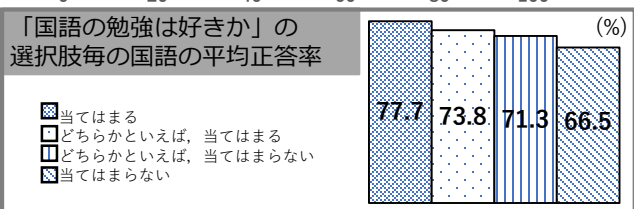
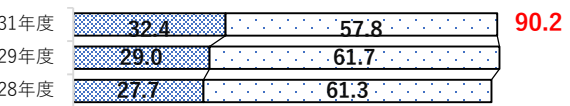
##### 目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか



##### 書く習慣を付ける授業を行いましたか

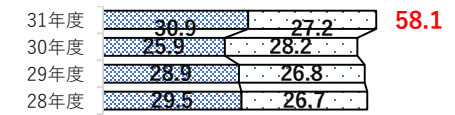


##### 様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか

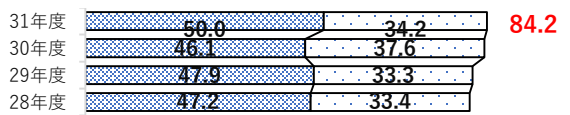


#### 【数学】 生徒の興味関心と学校の指導状況

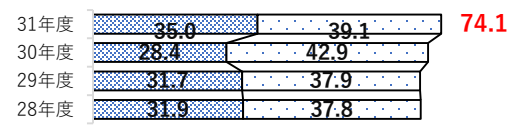
##### 数学の勉強は好きですか



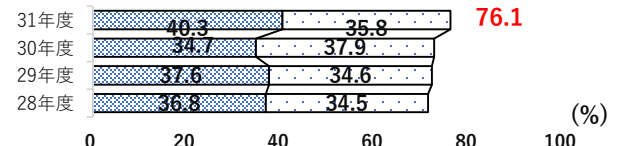
##### 数学の勉強は大切だと思いますか



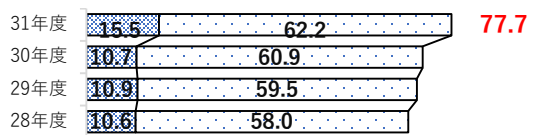
##### 数学の授業の内容はよくわかりますか



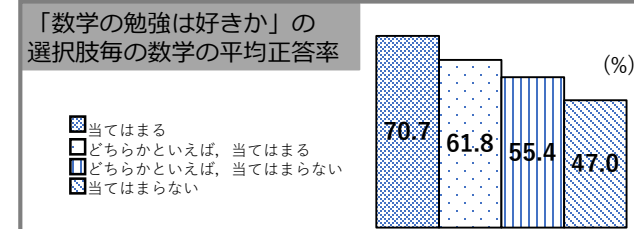
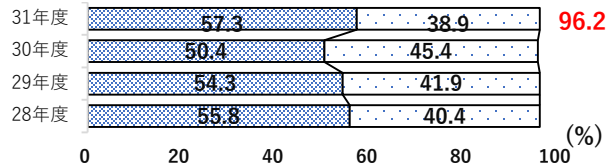
##### 数学の授業で学習したことは, 将来, 社会に出たときに役に立つと思いますか



##### 実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



##### 計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか



# 2(1). 国語、算数・数学について

## ③児童生徒の正答の状況

◆ 教科調査における特定の設問と児童生徒質問紙における教科学習に関する姿勢を問う項目のクロス分析によると、小学校では、例えば、算数で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えたりしている児童の方が、算数の大問4(3)の設問の正答の割合が高く、そうでない児童の方が正答の割合が低い傾向が見られた。

◆ また、中学校では、例えば、国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしている生徒の方が、国語の大問1(二)の正答の割合が高く、そうでない生徒の方が正答の割合が低い傾向が見られた。

### 児童生徒の教科学習に関する姿勢と正答状況の分析

#### 小学校【算数】

(児童質問紙)

算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えるか



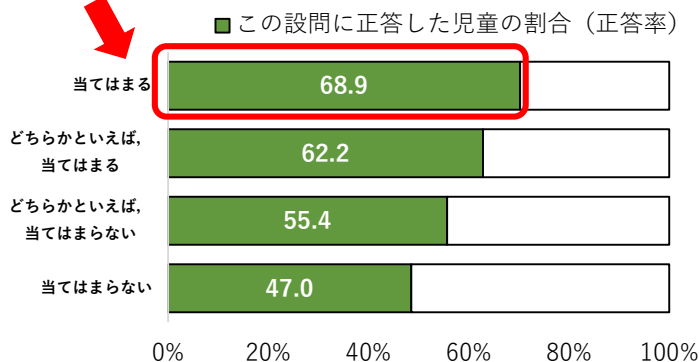
〔算数 大問4 (3)〕

日常生活の事象を数理的に捉え判断する問題

(遊園地での待ち時間)

場面の状況を解釈し、数量の関係に着目して筋道を立てて考え、数学的に表現・処理し、得られた結果から条件に合うかどうかを判断する問題

➡ P.7参照



#### 中学校【国語】

(生徒質問紙)

国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいるか

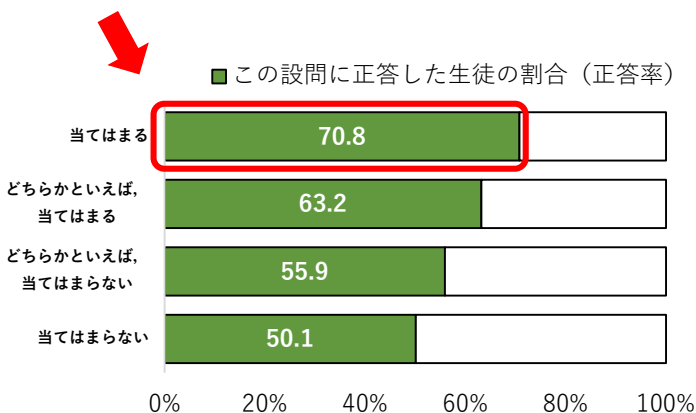


〔国語 大問1 (二)〕

文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える問題 (中学生新聞の記事の読み取り)

目的意識をもって必要な情報を過不足なく取り出す問題

➡ P.4参照





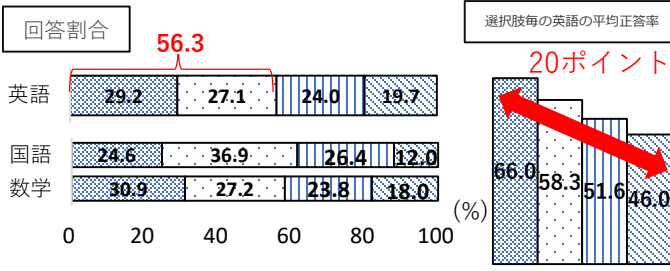
# 2(2). 中学校英語について

## ①生徒の興味関心等

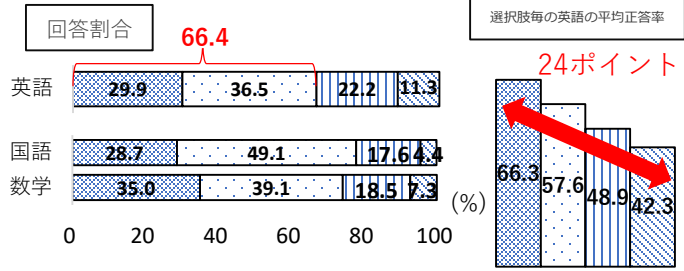
- ◆「英語の勉強は好きか」との質問に肯定的に回答した生徒の割合は5割を超えており、国語や数学とほぼ同程度であるが、「英語の授業はよく分かりますか」との質問に肯定的な回答をした生徒の割合は6割を超えているが、国語や算数と比べてやや少ない。
- ◆「英語の勉強は大切だと思うか」「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか」との質問に肯定的に回答した生徒の割合はどちらも8割を超えている。
- ◆興味関心、授業の理解度に関する質問に肯定的に回答した生徒の方が、英語の平均正答率が高い傾向が見られる。とりわけ、「英語の勉強は好きか」「英語の授業はよく分かるか」と平均正答率の関係がある。
- ◆「生徒の学校外での日常的な英語の使用機会(地域の人や海外の人と話す、手紙やメールを書く、TVやHPを見る、英会話教室に通う等)があるか」との質問に肯定的に回答した生徒の割合は3割を超えている。この質問に肯定的に回答した生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られたが、「英語の勉強は好きか」「英語の授業はよく分かるか」の質問の方が平均正答率との関係が明瞭である。
- ◆「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいか」との質問に肯定的に回答した割合は、生徒の方が児童に比べて若干少ないものの、どちらも6割を超えている。

当てはまる  
  どちらかといえば、当てはまる  
  どちらかといえば、当てはまらない  
  当てはまらない

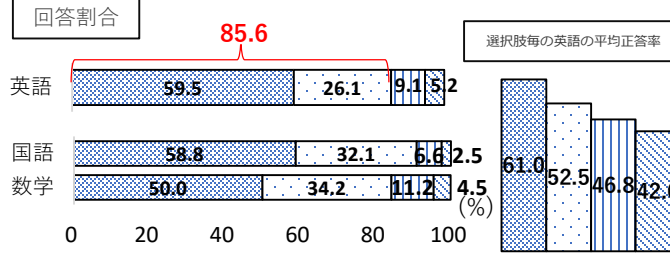
【生徒質問紙】英語の勉強は好きですか。



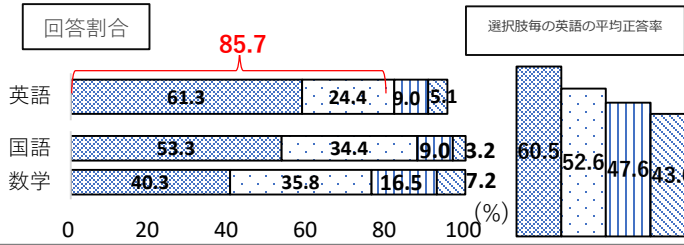
【生徒質問紙】英語の授業はよく分かりますか。



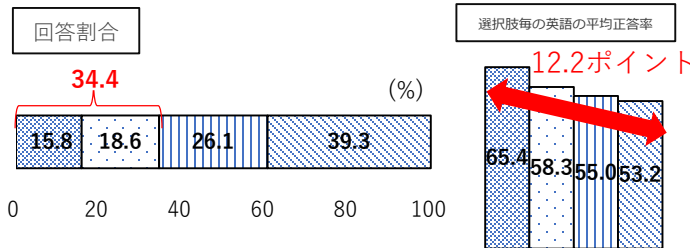
【生徒質問紙】英語の勉強は大切だと思いますか。



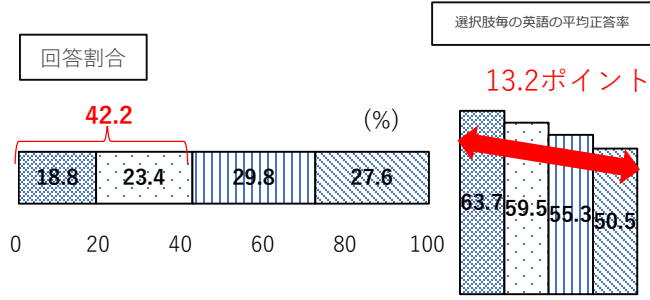
【生徒質問紙】英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



【生徒質問紙】あなたはこれまで、学校の授業やそのための学習以外で日常的に英語を使う機会(地域の人や海外にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど)が十分にありましたか。



【生徒質問紙】あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか。

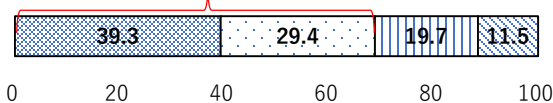


【児童生徒質問紙】あなたは外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいかと思いませんか。

小学校

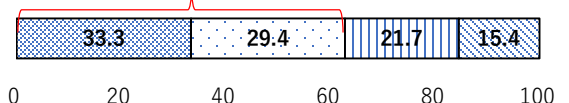
当てはまる  
  どちらかといえば、当てはまる  
  どちらかといえば、当てはまらない  
  当てはまらない

回答割合 **68.7** (%)



中学校

回答割合 **62.7** (%)



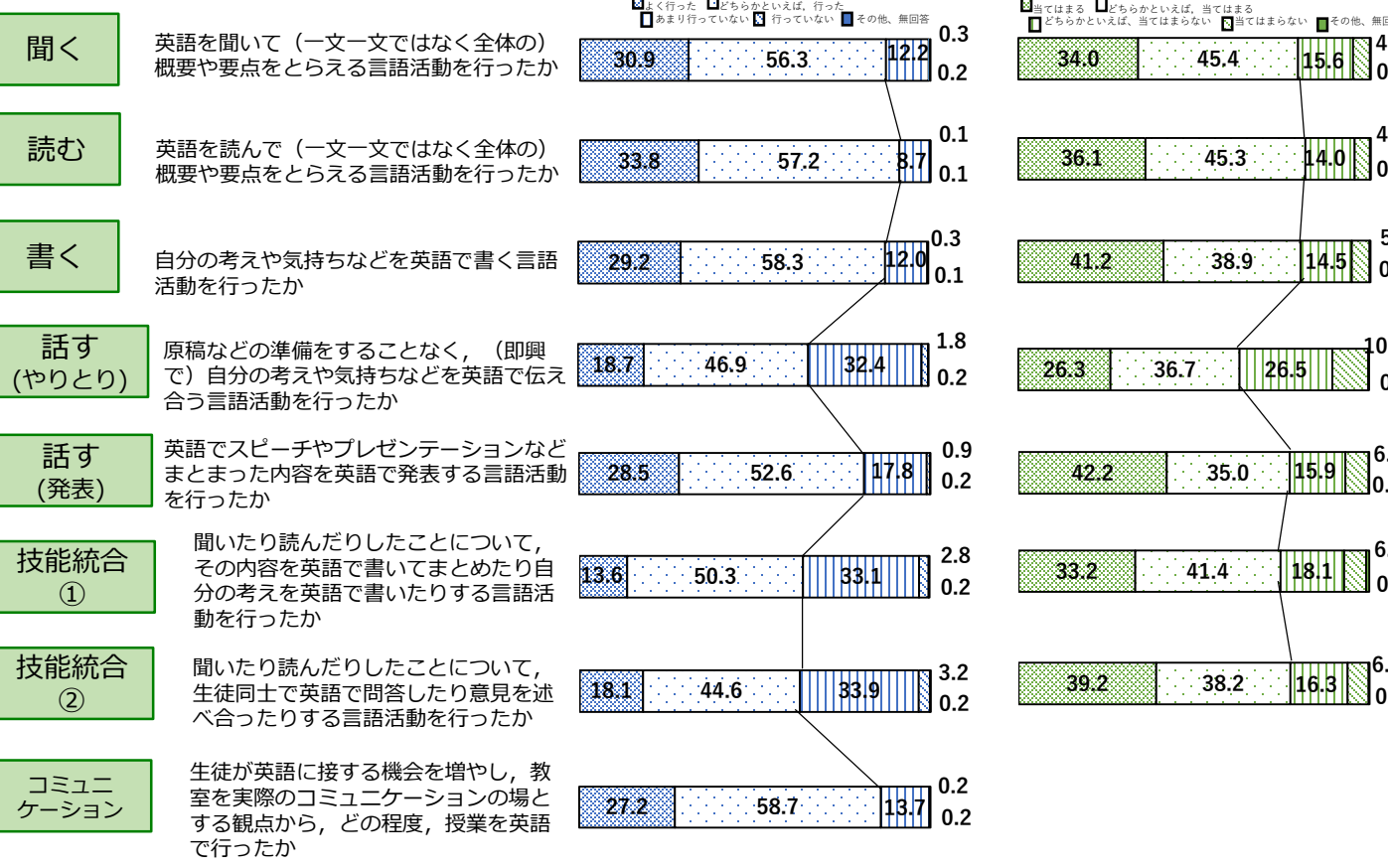
# 2(2). 中学校英語について

## ②学校における指導状況と生徒の授業の受け止め

- ◆英語の領域別の指導状況を見ると、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」に関する言語活動について肯定的な回答をした学校の割合はいずれも9割近い。「話すこと(発表)」については、肯定的な回答をした学校の割合が8割,即興で伝え合うなどの「話すこと〔やり取り〕」や技能統合的な活動(聞いたり読んだりしたことについて書く活動,話す活動)については6割を超える。
- ◆「英語の授業において,生徒が英語に接する機会を増やし,教室を実際のコミュニケーションの場面とする観点から,どの程度授業を英語で行ったか」との質問に肯定的に回答した学校の割合は8割を超えている。
- ◆授業における領域別の言語活動について生徒の受け止めを見ると(同様の項目を生徒質問紙で調査),おおむね学校の回答傾向に近いが,生徒の受け止めの方が肯定的な回答がやや少ない。
- ◆即興で自分の考えを英語で伝え合う言語活動や,聞いたり読んだりした内容について英語で書いてまとめたり自分の考えを書いたりする言語活動を行っている学校と行っていない学校では,「英語の勉強が好き」という生徒な割合に2倍以上の大きな差が出ている。

回答割合 学校の指導状況

回答割合 生徒の授業の受け止め

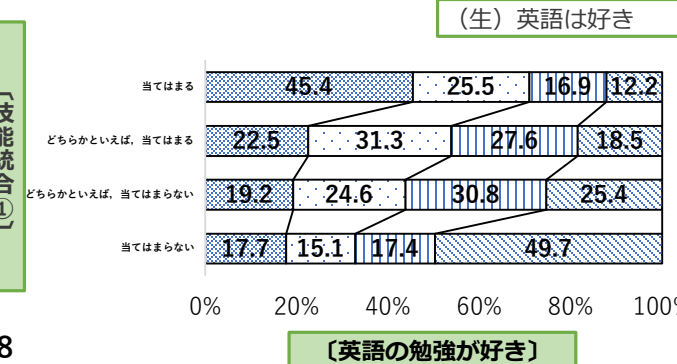
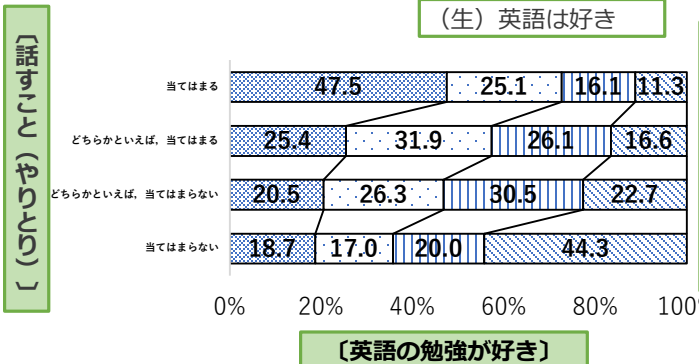


【話すこと(やり取り)】と【英語の勉強が好き】の関係

【技能統合①】と【英語の勉強が好き】の関係

(生) 原稿などの準備をすることなく,(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動が行われていたと思うか

(生) 聞いたり読んだりした内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動が行われていたと思うか



# 2(2). 中学校英語について

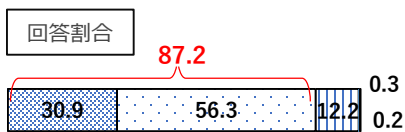
## ③学校における指導状況(領域別)

- ◆「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと(やりとり)・(発表)」の領域別に見ると、すべての領域において、それぞれに関する言語活動を行っている学校の方が当該領域の平均正答率が高い傾向が見られ、学校における指導が影響していることが伺える。
- ◆この傾向は、個別の設問の正答状況からも伺うことができ、各設問に関わりの深い言語活動について「行われていたと思う」と回答した生徒の方が正答の割合が高い傾向が見られた。

※19～21ページの分析は、領域別の正答率を算出して、その領域の言語活動に関する学校質問紙の項目とのクロス分析をしている(青グラフ)。また、授業における領域別の言語活動についての生徒の受け止めと当該領域の特定の設問とのクロス分析をしている(緑グラフ)。

### 【聞くこと】7問/21問

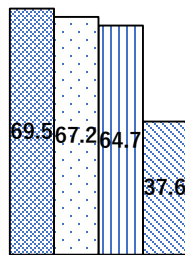
【学校質問紙】英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる言語活動を行いましたか。



英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる言語活動が行われていたと思っている生徒の方が、**大問1**(4)の正答の割合が高い。

※学校質問紙

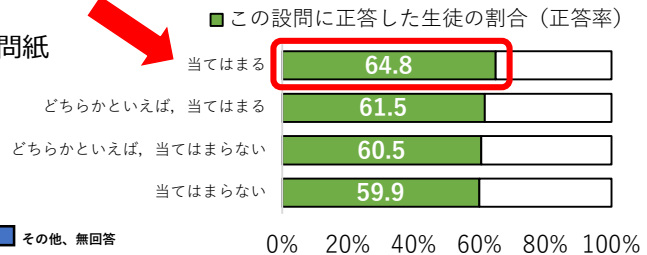
選択肢毎の平均正答率 (聞くこと)



**大問1**(4) → P.11参照

日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができるかどうかを問う問題(夕食とお風呂の順序)

※生徒質問紙

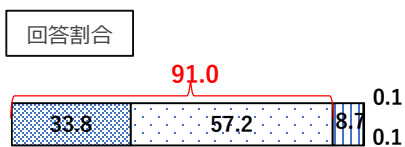


■ 当てる ■ どちらかといえば、当てる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない ■ その他、無回答

0% 20% 40% 60% 80% 100%

### 【読むこと】6問/21問

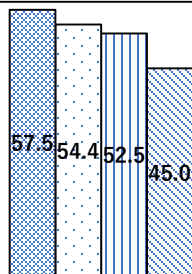
【学校質問紙】英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる言語活動を行いましたか。



英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる言語活動が行われていたと思っている生徒の方が、**大問6**の正答の割合が高い。

※学校質問紙

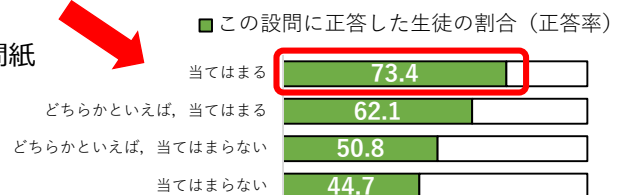
選択肢毎の平均正答率 (読むこと)



**大問6**

まとまりのある文章(100円ショップについて)を読んで、話のあらすじを理解することがどうかを問う問題

※生徒質問紙



■ 当てる ■ どちらかといえば、当てる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない ■ その他、無回答

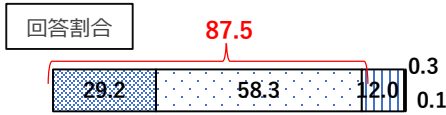
0% 20% 40% 60% 80% 100%

# 2(2). 中学校英語について

## ③学校における指導状況(領域別)

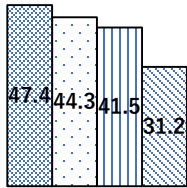
### 【書くこと】8問/21問

【学校質問紙】自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行いましたか。



※学校質問紙

選択肢毎の平均正答率  
(書くこと)

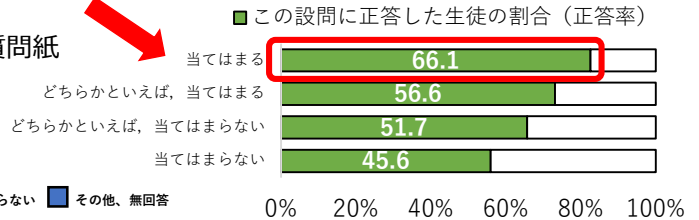


自分の気持ちや考えなどを英語で書く言語活動が行われていたと思っている生徒の方が、問9(1)の正答の割合が高い。

大問9 (1)② P.12参照

語や文法事項等を理解して、文の中で適切に接続詞 (but)を用いることができるかどうかを問う問題

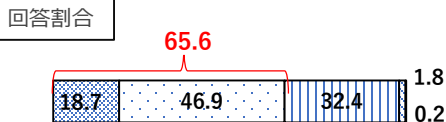
※生徒質問紙



### 【話すこと】5問

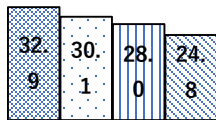
【学校質問紙】〔やりとり〕

原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行いましたか。



※学校質問紙

選択肢毎の平均正答率  
(話すこと)

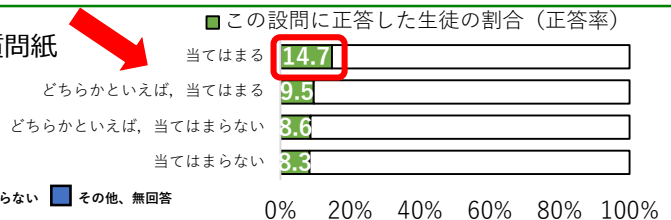


即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動が行われていたと思っている生徒の方が、大問2の正答の割合が高い。

大問2 P.13参照

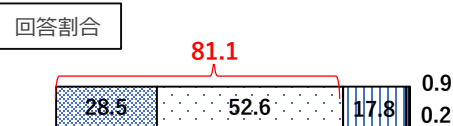
会話をする2人のやりとりを聞き、即興で応じるもので、2人の会話の内容を踏まえて関連した質問ができるかどうかを問う問題

※生徒質問紙



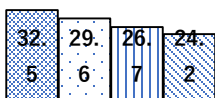
【学校質問紙】〔発表〕

英語でスピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行いましたか。



※学校質問紙

選択肢毎の平均正答率  
(話すこと)

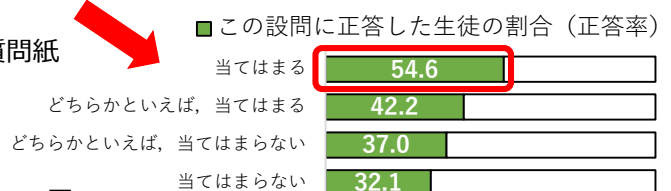


英語でスピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動が行われていたと思っている生徒の方が、「話すこと」問3の正答の割合が高い。

「話すこと」大問3 P.13参照

与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容(将来の夢)を話すことができるかどうかを問う問題

※生徒質問紙



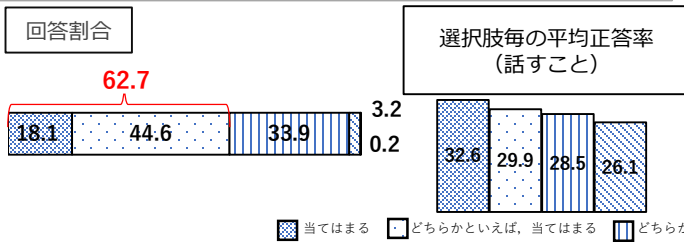
# 2(2). 中学校英語について

## ③学校における指導状況(領域別)

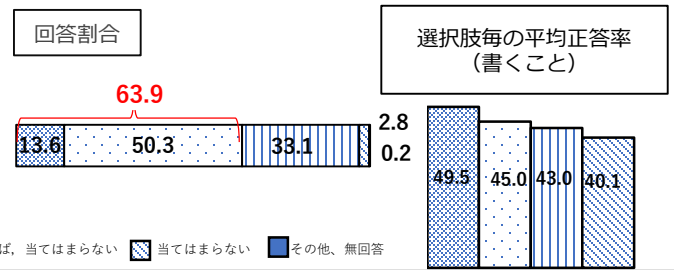
- ◆「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で意見を述べ合ったりする」あるいは「その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする」という技能統合の言語活動についても、こうした言語活動を行っている学校の方が当該領域の平均正答率が高い傾向が見られた。
- ◆年間の授業のうちのALT(外国語指導助手)を活用した授業の頻度については、4割程度の学校が「ほぼ毎日」「週に数回以上」だが、4割程度が「週に1回程度」である。また、「英語担当教師とALTとの間で、授業のねらいや生徒の実態等について共通認識をもって協力して授業を行っているか」との質問に肯定的に回答した学校の割合は、9割を超えている。
- ◆お互いの授業を見て指導方法や指導内容を学び合うなどの小学校との連携については、肯定的に回答した学校が5割程度であった。
- ◆就学援助を受けている生徒の割合を考慮した三重クロス分析においても、就学援助を受けている生徒の割合が高い学校、低い学校どちらにおいても、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いたりする言語活動を行った学校の方が、英語の平均正答率が高い傾向が見られた。

### 【技能統合】

【学校質問紙】【技能統合/ 聞く+読む→話す】  
聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行いましたか。

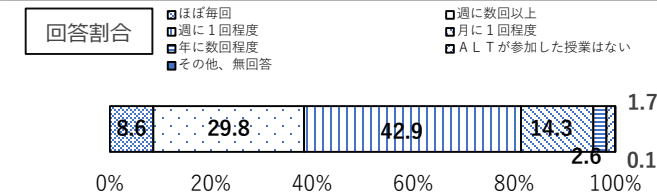


【学校質問紙】【技能統合/ 聞く+読む→書く】  
聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行いましたか。

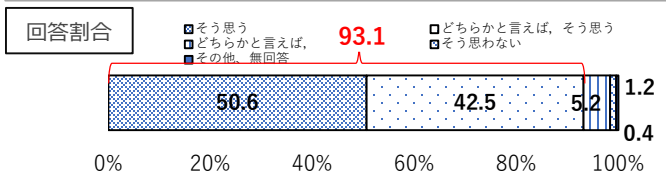


### ALT(外国語指導助手)

【学校質問紙】年間の授業のうち、どのくらいの頻度でALT(外国語指導助手)を活用した授業を行いましたか。

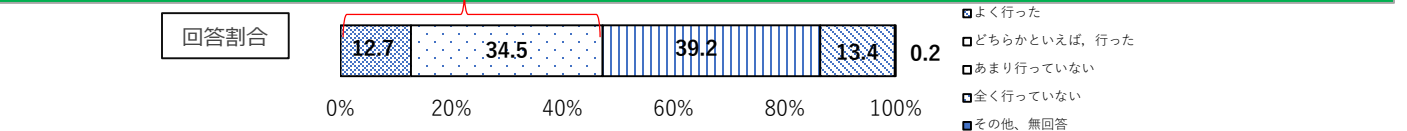


【学校質問紙】英語担当教師とALTとの間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行うことができていると思いますか。



### 小学校と中学校の連携

【学校質問紙】英語教育に関して、お互いの授業を見て指導方法や指導内容を学び合うなどの連携を小学校とどの程度行いましたか。



### 三重クロス分析 (就学援助率×言語活動×英語の平均正答率)

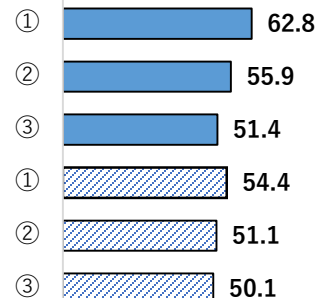
【技能統合/ 聞く+読む→書く】  
聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行いましたか。

- ①よく行った
- ②どちらかといえば、行った
- ③あまり行っていない

※「全く行っていない」は、学校数が50校未満のため、分析から除外

※データは公立のみ

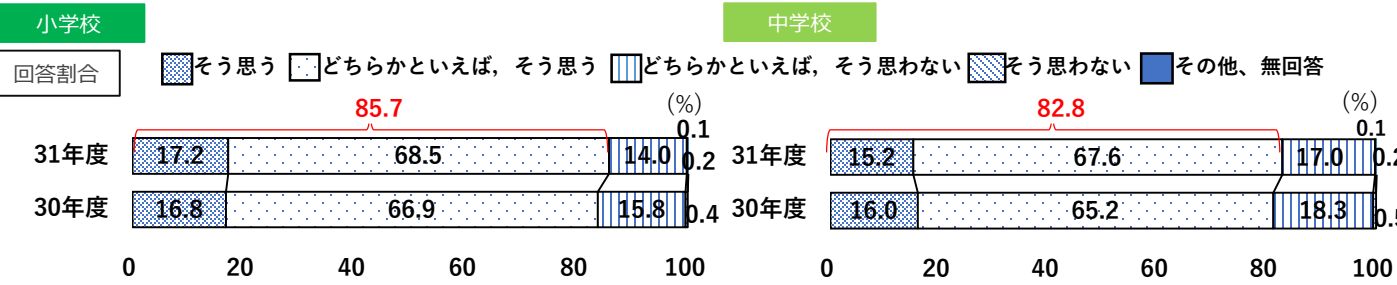
■ 就学援助を受けている生徒の在籍割合5%未満 ▨ 30%以上



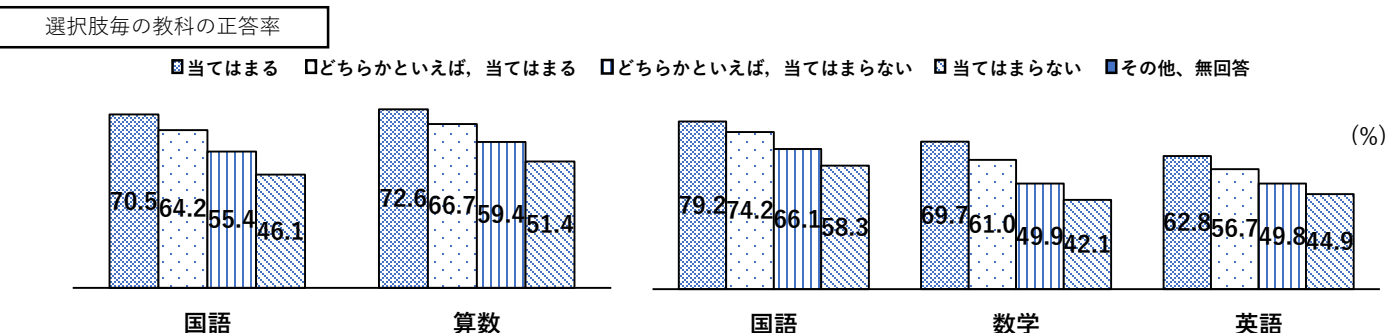
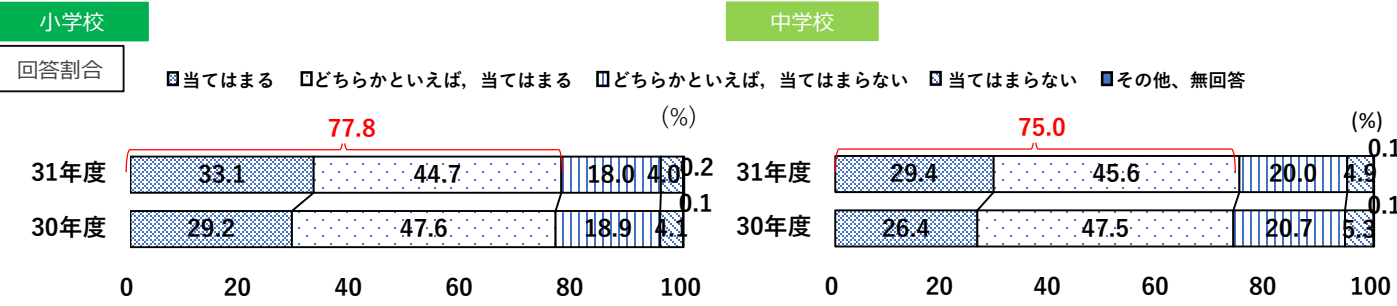
# 2(3). 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況①

- ◆「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うか」との質問に肯定的に回答した小中学校の割合は昨年度より増加しており、8割を超える。
- ◆また、この質問に肯定的に回答した児童生徒の割合も昨年度より増加しており、7割を超える。
- ◆この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が、国語、算数・数学、英語ともに平均正答率が高い傾向が見られた。
- ◆就学援助を受けている児童生徒の割合を考慮した三重クロス分析(学校質問紙)においても、こうした取組を行っている学校の方がすべての教科において平均正答率が高い傾向が見られた。

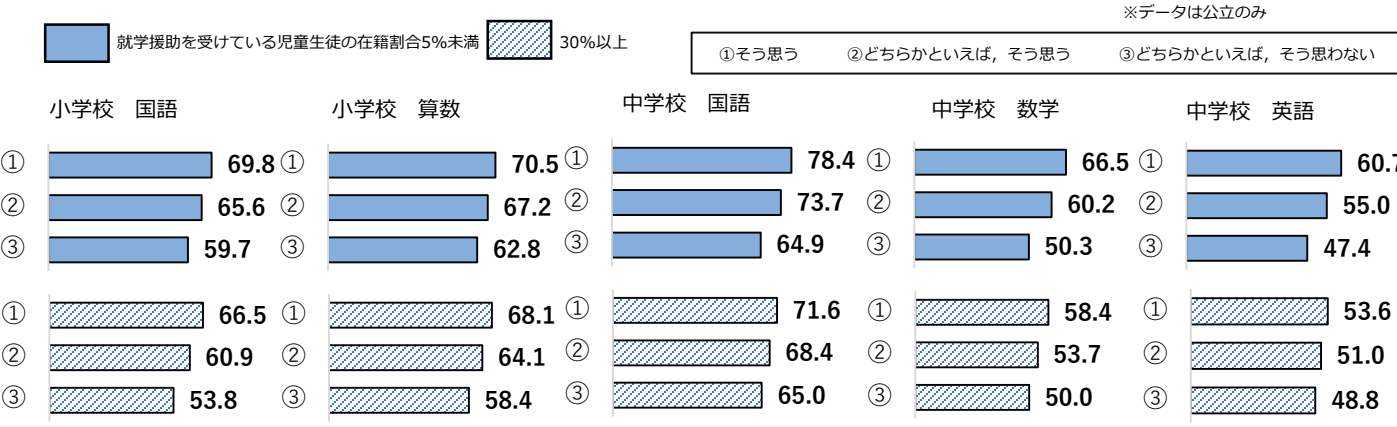
【学校質問紙】調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。



【児童生徒質問紙】5年生まで〔1,2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



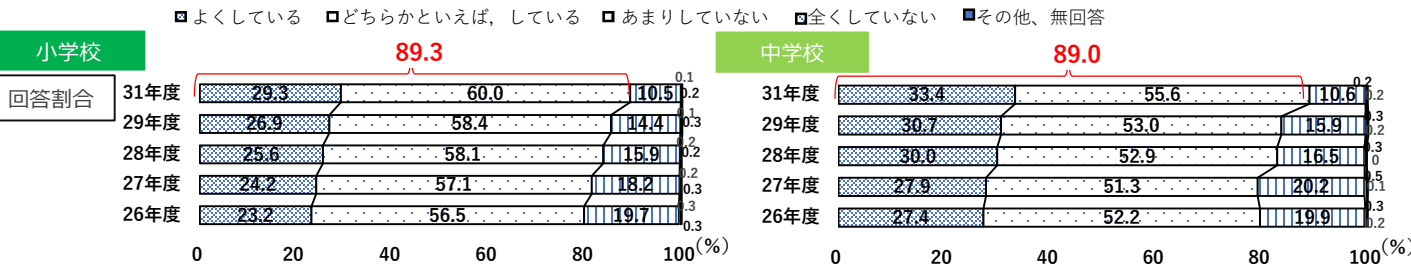
## 三重クロス分析 (就学援助率×学校の取組×各教科の平均正答率)



# 2(3). 主体的・対話的で深い学びの視点からの 授業改善に関する取組状況②

- ◆「総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしているか」との質問に肯定的に回答した小中学校の割合は、平成27年度以降増加傾向にあり、今年度は小中学校ともに9割程度である。
- ◆学級会や学級活動においても、「互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成する」ことや「一人一人の児童生徒が意志決定できるような指導を行う」ことについて、肯定的な回答をした小中学校の割合は9割を超えている。
- ◆総合的な学習の時間や学級会等の特別活動に意欲的に取り組んでいる小中学校の方が、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善や、学級全員で挑戦する課題を与えることにより取り組んでいる傾向が見られた。

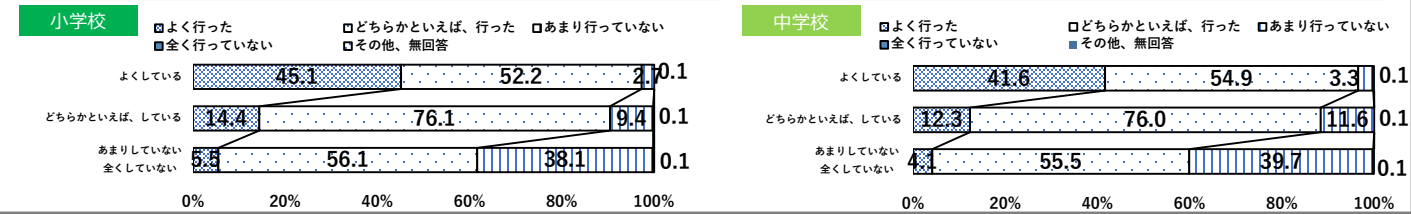
【学校質問紙】 総合的な学習の時間で、課程の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか。



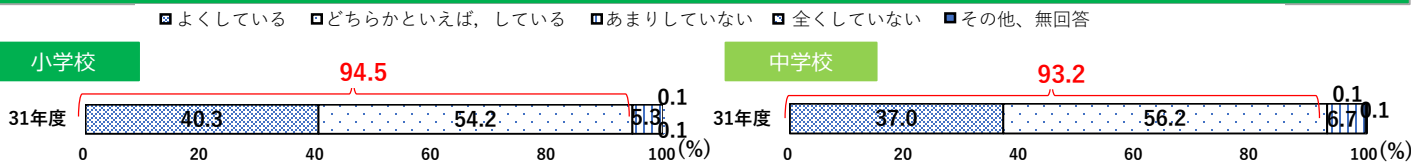
【総合的な学習の時間】 と 【習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善】 の関係

(学) 総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしたか

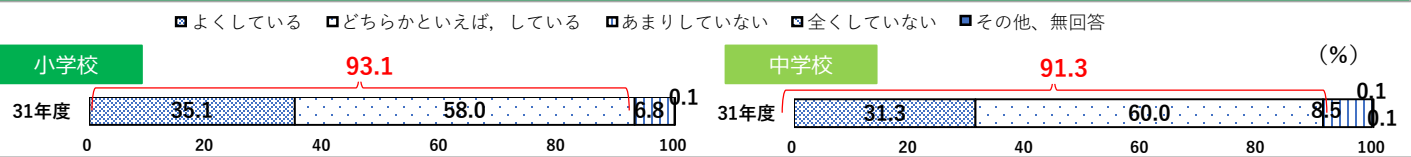
(学) 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたか



【学校質問紙】 学級会〔学級活動〕で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っていますか。(新規)



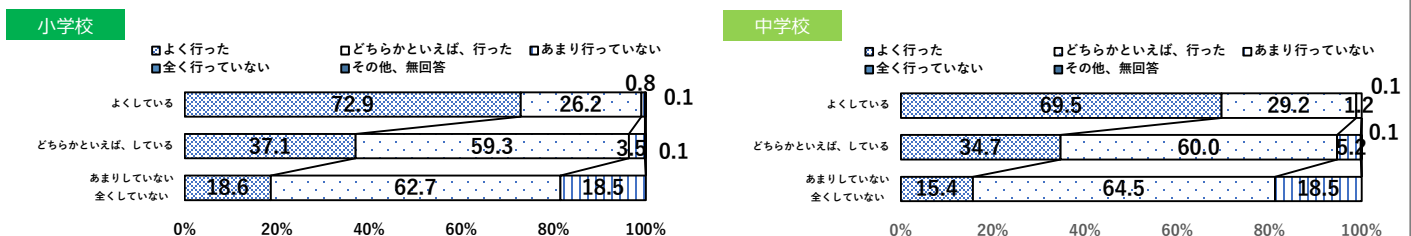
【学校質問紙】 学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意志決定できるような指導を行っていますか。(新規)



【学級活動】 と 【学級全員で挑戦する課題やテーマの付与】 の関係

(学) 学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っているか。

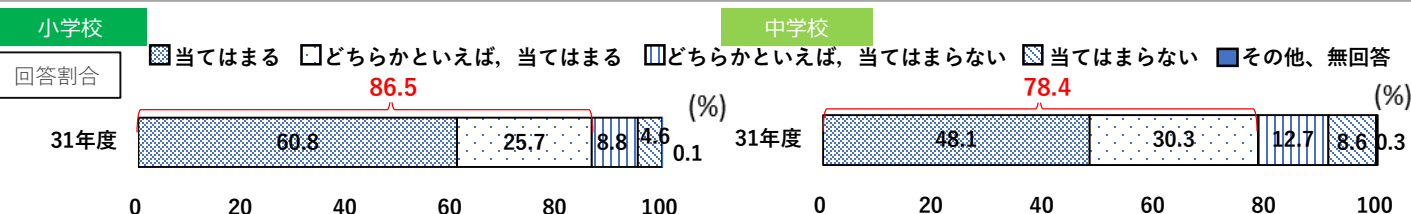
(学) 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えたか



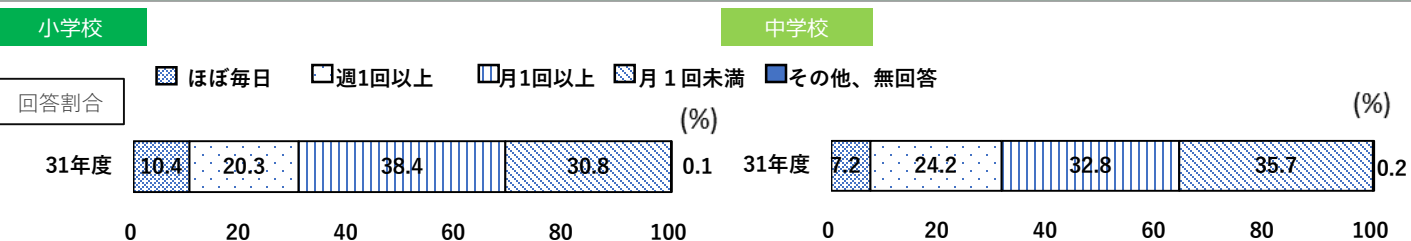
## 2(4). ICTを活用した学習状況

- ◆「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思うか」との質問に肯定的に回答した割合は、児童が8割を超え、生徒が8割程度である。コンピュータなどのICTを活用した授業に対する児童生徒の興味関心は高い。
- ◆実態としては「前年度までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度活用したか」との質問に「ほぼ毎日」と回答した児童生徒は1割以下であり、7割程度が「月1回以上」「月1回未満」という活用状況である。
- ◆児童生徒ともに、授業でのコンピュータなどのICTの使用頻度が高いほど、もっと活用したいという興味関心が高くなる傾向が見られた。
- ◆「教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICTを活用した授業の1クラス当たりの頻度」は、前年度から増加しているものの、依然として2割程度の学校で「月1回以上」「月1回未満」である。

【児童生徒質問紙】授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか。（新規）



【児童生徒質問紙】前年度までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか。（新規）

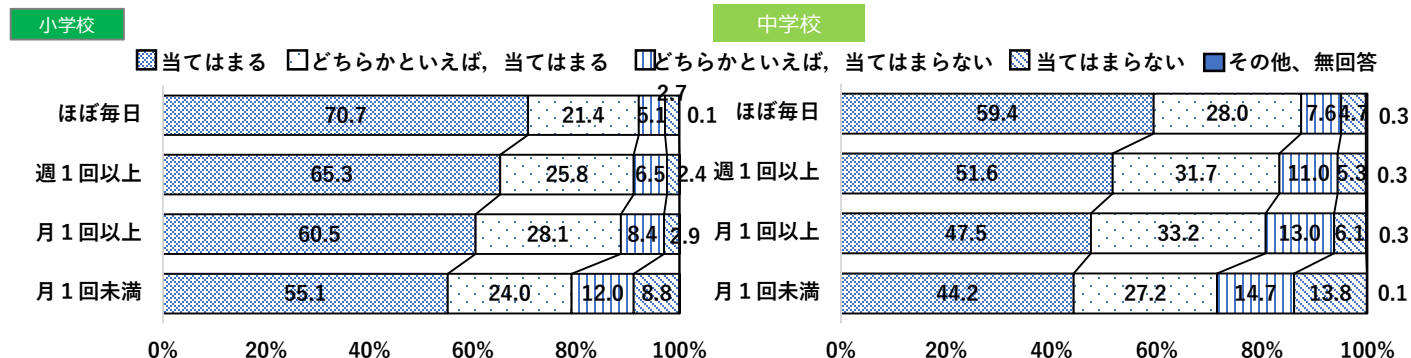


【コンピュータなどのICTの使用頻度】と【授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思う】の関係

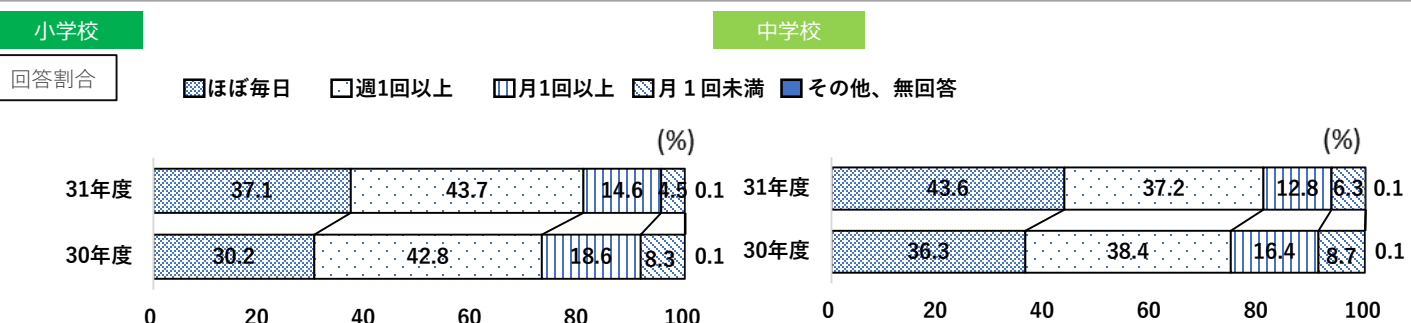
（児・生）前年度に受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用したか



（児・生）授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思うか



【学校質問紙】前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか。

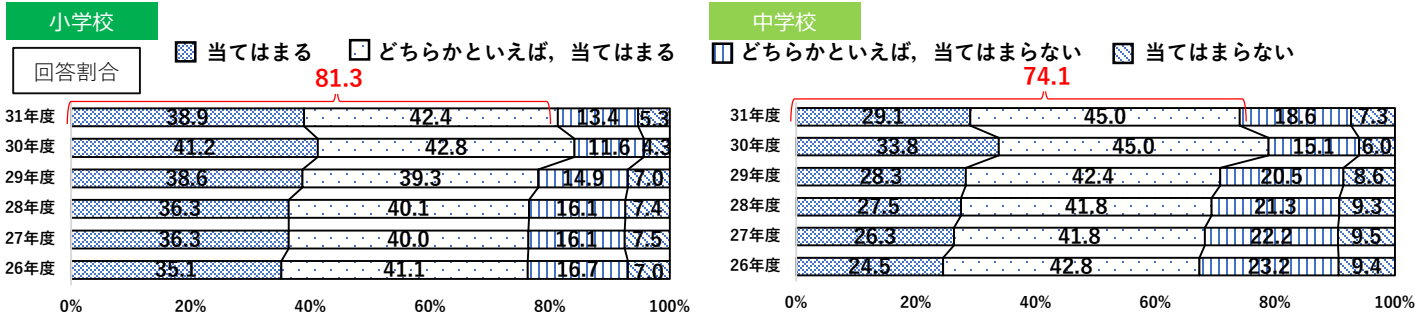




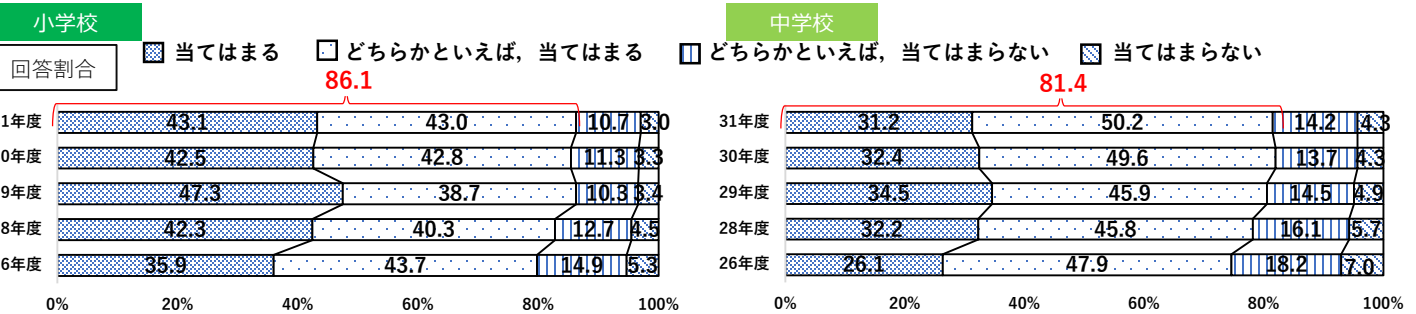
# 2(5). 児童生徒の自己肯定感、挑戦心、達成感等に関する状況①

- ◆ 「自分にはよいところがあると思うか」との質問に肯定的に回答した児童生徒の割合は児童が8割,生徒が7割を超え,日々の多様な教育活動の中で,児童生徒の自己肯定感を育むことが重要である。
- ◆ 「先生は,あなたのよいところを認めてくれていると思うか」との質問は,児童生徒ともに,昨年度と同様に8割を超える。
- ◆ 「児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行ったか」との質問に肯定的に回答した小中学校の割合は,昨年度と同様に9割を超える。
- ◆ 「先生は,授業やテストで間違えたところや,理解できなかったところについて,分かるまで教えてくれるか」との質問に肯定的に回答をした児童生徒の割合は増加しており,児童は9割,生徒は8割を超え,学習指導において,児童生徒は教師に対して一定の満足感を得ている傾向が伺える。

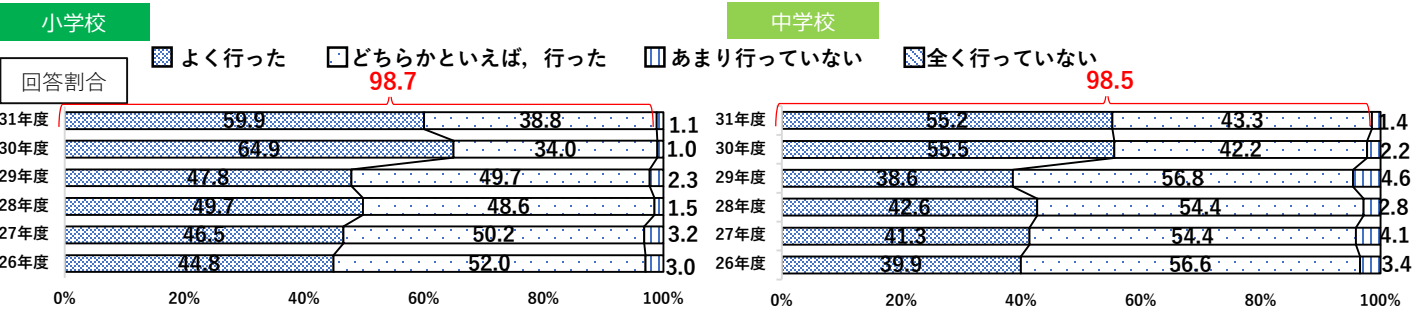
【児童生徒質問紙】自分にはよいところがあると思いますか。



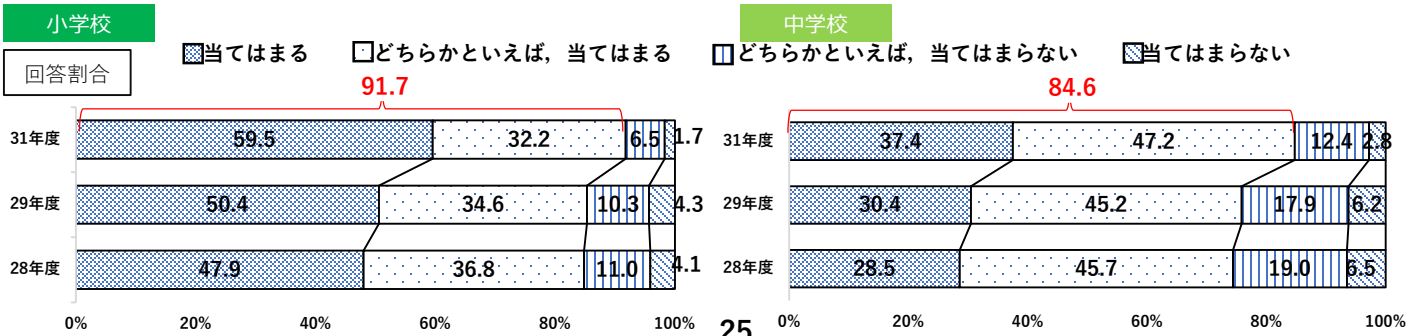
【児童生徒質問紙】先生は,あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



【学校質問紙】調査対象の児童生徒に対して,前年度までに,学校生活の中で,児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか。



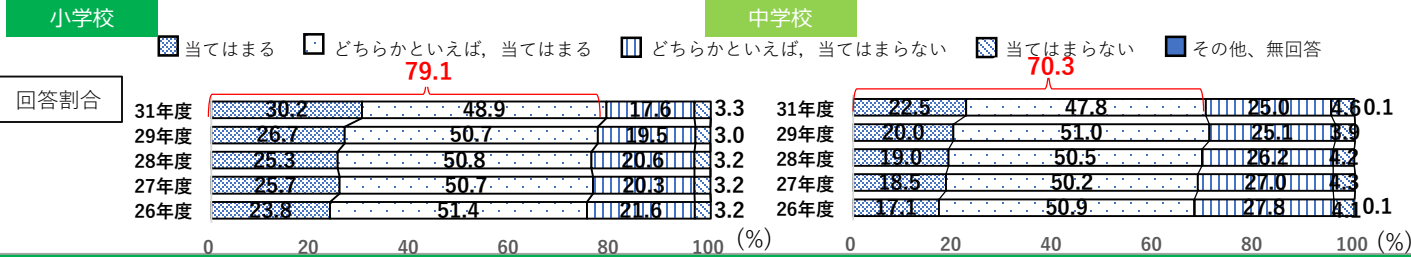
【児童生徒質問紙】授業やテストで間違えたところや理解できなかったところを分かるまで教えてくれますか。



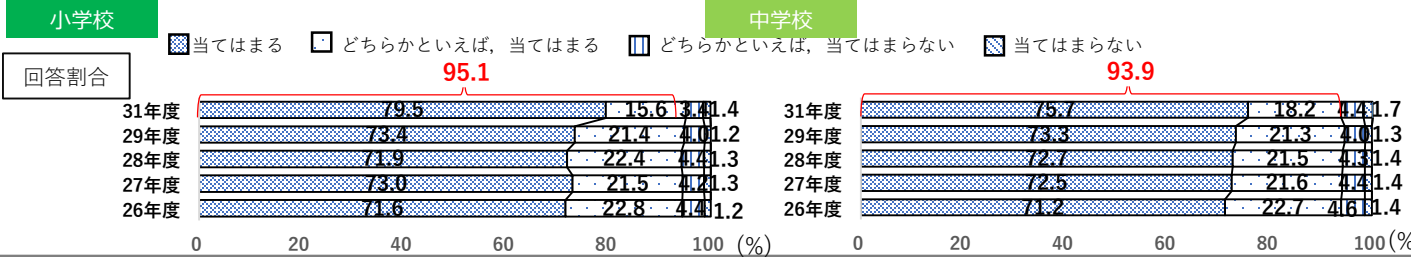
# 2(5). 児童生徒の自己肯定感、挑戦心、達成感等に 関する状況②

- ◆「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか」(挑戦心),「ものごとを最後までやり遂げて,うれしかったことがあるか」(達成感)ともに,平成29年度と比べると,最も肯定的に回答した児童生徒の割合が増加している。
- ◆とりわけ,「難しいことでも,失敗を恐れなくて挑戦する」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど,授業で学んだことをほかの学習に生かそうとしたり,国語,算数,英語等の学習においても,主体的な姿勢をとる傾向がある。

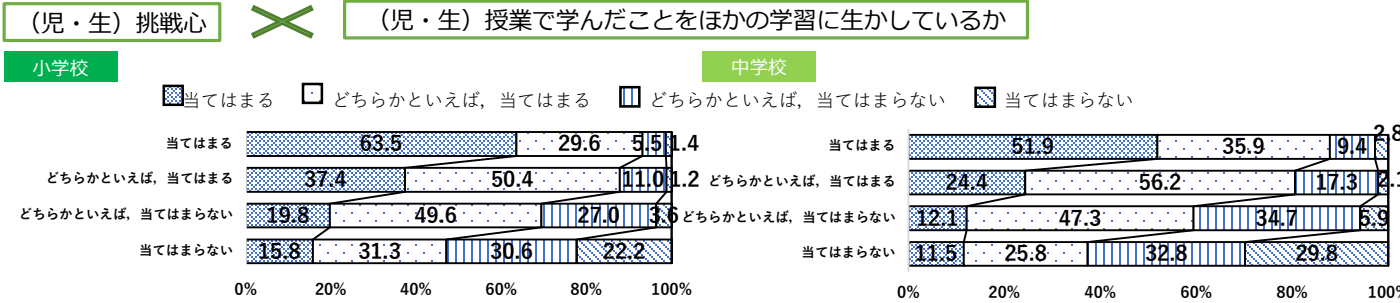
【児童生徒質問紙】 難しいことでも,失敗を恐れなくて挑戦していますか。



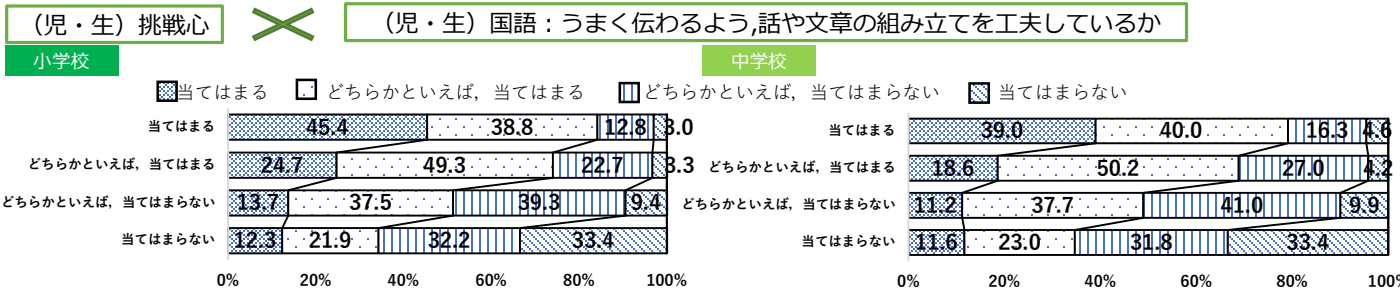
【児童生徒質問紙】 ものごとを最後までやり遂げて,うれしかったことがありますか。



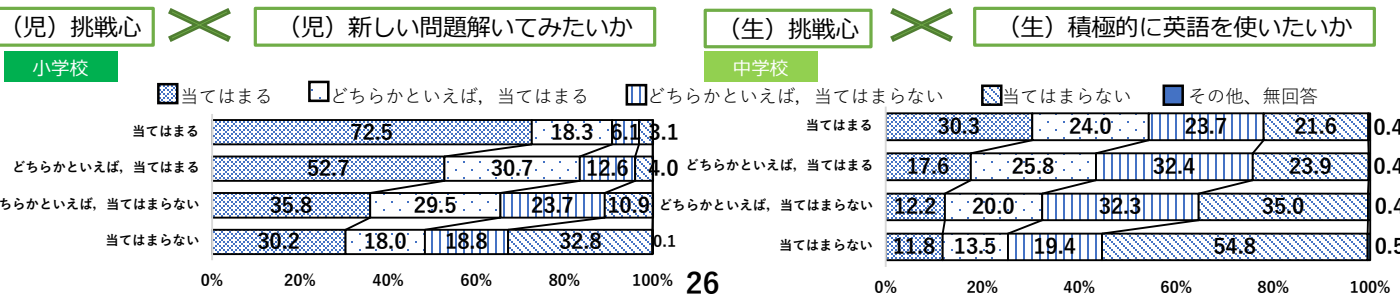
① [挑戦心] と [授業で学んだことをほかの学習に生かしているか] の関係



② [挑戦心] と [国語：うまく伝わるよう,話や文章の組み立てを工夫しているか] の関係



③ [挑戦心] と [算数：新しい問題を解いてみたいか] [英語：積極的に英語を使う生活をしたいか] の関係



# 文部科学省の主な取組一覧

## 新学習指導要領の着実な実施

- 資質・能力(※)の育成を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善やカリキュラム・マネジメントを推進 (※)新学習指導要領において「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に再整理
  - ・ 新学習指導要領の趣旨・内容の周知・徹底
    - －各都道府県等による研修に文部科学省職員を講師として派遣
    - －(独)教職員支援機構と連携し、新学習指導要領のポイントを解説する動画の作成・配信
  - ・ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善やカリキュラム・マネジメントに関する効果的な実践事例の収集、情報提供
    - －都道府県教育委員会等に委託し、実践事例等の普及のための調査研究事業を実施
    - －(独)教職員支援機構と連携し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の実践事例や研修プログラム例をウェブ上で情報提供
- ⇒ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善により、資質・能力の三つの柱の育成をバランスよく実現する。カリキュラム・マネジメントを推進し、学校全体として、教育内容や時間の配分、必要な人的・物的体制の確保、教育課程の実施状況に基づく改善などを通して、教育活動の質の向上を進める。

## ○英語教育の充実

- ・ 英語教育の目標を設定、実施状況を把握しPDCAを展開する教育委員会を支援
- ・ 新学習指導要領の趣旨を周知・徹底するための取組を支援
  - －「話すこと[やり取り]」の活動に継続的に取り組むための指導資料の活用
  - －生徒の英語での発信力(話すこと・書くこと)強化のための教授法をオンライン等で学ぶ研修方法の開発
  - －改訂のポイントを踏まえた授業例等を紹介した動画の公開(YouTube MEXTchannelで公開中、随時追加)

## ICTを活用した教育の推進

### ○「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策」の具体化・実施(令和元年6月公表)

- ・ 「学校現場における先端技術利活用ガイドライン」を、令和2年度内を目途に策定
- ・ 教育ビッグデータの活用促進のため、教育データの標準化に向けて検討を行い、令和2年度中に一定の結論
- ・ 世界最先端のICT環境に向かうためのロードマップを今年度中に策定

### ○教育活動をより豊かにするためのICT関係の研修等の充実

- ・ ICTを活用した効果的な指導を行うための実践事例集の周知・普及
- ・ 教師のICT活用指導力の向上を図るための校内研修を実施するリーダー教師のための研修の手引きの周知・普及

### ○学校のICT環境整備の加速化に向けた取組

- ・ 安価な環境整備に向けた具体策の検討や関係者の専門性を高める取組等を推進

## 調査結果を活用した施策や指導の改善

### ○指導改善に資する資料の配布など

- ・ 報告書や授業アイデア例を全国に配布(教育委員会や学校等で学習指導の改善・充実に際して活用)
- ・ 全国説明会を開催し、学習指導の改善・充実にポイント等を解説(8月22日(木)東京、8月27日(火)北九州)
- ・ 国立教育政策研究所の学力調査官等を派遣し、教育委員会や学校への指導・助言を実施  
(国立教育政策研究所HP <http://www.nier.go.jp/19chousakekkahoukoku/index.html>)

### ○調査結果を踏まえた追加分析

- ・ 大学等の研究機関の専門的な知見を活用した高度な分析に関する調査研究を実施  
<今年度の調査研究テーマ>
  - ①英語に関する調査研究、②学校のICT環境を活用したCBTに求められる諸条件等の調査研究(市場調査)

### ○全国学力・学習状況調査の個票データ等の貸与

- ・ 大学等の研究者による多様な学術研究の分析や、公的機関の職員等による教育施策の改善・充実に促進するため、平成30年度より、個票データ等の貸与を開始(有識者会議による審査あり)